

## 資料編

1. 策定の経過	1
2. 八女市食料・農業・農村基本条例	2
3. 八女市食料・農業・農村政策審議会規則	4
4. 八女市食料・農業・農村政策審議会委員名簿	5
5. 八女市食料・農業・農村計画プロジェクト会議名簿	6
6. 市民アンケート結果(概要、全体集計、クロス集計)	7

## 1. 策定の経過

令和3年

- 4月 第2次八女市食料農業農村基本計画策定業務委託 発注準備
- 5月 入札～契約（5/12）  
打合せ（実施計画書の検討等）、九州大学への受託研究申請～契約（6/1）  
基礎調査（既存資料の収集・整理）～8月
- 6月 政策審議会への諮問（基本計画の策定）  
打合せ（実施計画書及びスケジュール確認等）  
有識者協議（九州大学）実施計画書、市民アンケート等
- 7月～9月 第1回プロジェクト会議（7/2）：スケジュール、市民アンケート等協議  
基礎調査（市民アンケート発送・回収～分析）～9月  
基礎調査（現況特性と課題の整理）～9月  
第2回プロジェクト会議（9/14）：アンケート結果、現況特性と課題、計画の構成
- 10月～12月 第1回政策審議会（10/6）スケジュール、アンケート結果、現況特性と課題、計画の構成  
計画内容の検討、有識者協議、関係課・関係機関等協議

令和4年

- 1月～2月 第3回プロジェクト会議（1/13）：目指す食料・農業・農村の姿、基本となる施策  
第2回政策審議会（1/28）：目指す食料・農業・農村の姿、基本となる施策  
計画書作成  
第4回プロジェクト会議（2/25）：食料・農業・農村基本計画の最終案協議
- 3月 関係課・関係機関等協議  
計画書最終案調整  
市長報告（計画書最終案協議）  
第3回政策審議会（3/10）：食料・農業・農村基本計画の最終案協議、審議会答申  
市長決裁、計画策定（完了）
- 4月 議会報告説明（全員協議会）  
基本計画の公表（市HP）、関係機関等への報告

## 2. 八女市食料・農業・農村基本条例

平成17年6月27日  
条例第15号

八女市及び八女市民は、矢部川の清流と緑豊かな田園及び丘陵等自然の恩恵を受けてきた。その中で農業は、先人たちの努力によって多くの伝統工芸とともに本市の基幹産業として今日まで営々と築かれ、全国ブランドの農産物主要産地としての名声を得ている。

農業及び農村は、農産物を生産し、市民に食料の供給を行うにとどまらず、国土の保全、水源のかん養、景観の形成、環境の保全、生物多様性の保全、文化の伝承等の多面的な機能（以下「多面的機能」という。）を有し、市民にかけがえのない財産を提供している。

しかしながら、近年における社会経済情勢の変化は著しく、国際化や都市化の波の中で農業及び農村を取り巻く環境も厳しいものとなってきた。農産物貿易の自由化、食生活の多様化などとともに農業者の減少や高齢化、後継者不足、農地の減少、食料の安全性への懸念等多くの問題が生じている。

これらの観点から、今後の本市の農業及び農村の振興と発展を図っていくためには、農業者の意欲と条件の向上はもとより、市民一人ひとりが、農業が本市の基幹産業であることを認識し、食料、農業及び農村が市民生活に果たしている役割の重要性についての理解を深めながら、地域で生産される農産物の地域内での消費をさらに進めていく必要がある。

私たち市民は、食料、農業及び農村に対する理解を深め、引き続き農業を本市の基幹産業として育みながら、魅力ある農村を次世代に引き継ぐとともに、その進むべき道を明らかにするためにこの条例を制定する。

（目的）

第1条 この条例は、本市の食料、農業及び農村のあり方についての基本理念及びその実現に必要な主要施策等に関する事項を定めることにより、食料、農業及び農村に対する市民の理解を深めるとともに、性別・年齢を問わず農業者一人ひとりの持つ力が発揮され、安全で安心できる食料の供給と消費が図られ、もって本市の多彩な農業が持続的に発展し、農業及び農村の持つ多面的機能が発揮され、豊かで住みよい地域社会の実現に寄与することを目的とする。

（基本理念）

第2条 食料は、健康で豊かな生活を支えるものであることから、安全で安心できる農産物が安定的に生産され、供給されることにより、将来にわたって食料に対する市民の信頼が確保されるとともに、地域で生産される農産物の地域内での流通及び消費が促進され、食の重要性に対する理解の促進と地域特有の食文化の継承が図られなければならない。

2 農業においては、優良な農地と農業用水その他の農業資源並びに基幹的な担い手とその後継者及び多様な担い手が確保されるとともに、地域の特性に応じた収益性の高いゆとりある農業が営まれ、かつ、自然環境と調和した持続的な発展が図られなければならない。

3 農村は、食料の生産のみならず、市民の生活及び地域活動の場であるとともに、多面的機能を有し、自然と人間との共生ができる調和のとれた空間として整備され、かつ、保全されなければならない。

（市の責務）

第3条 市は、前条に規定する基本理念に基づき、食料、農業及び農村に関する基本的かつ総合的な施策を推進する責務を有する。

（農業者及び農業団体の責務）

第4条 農業者及び農業団体は、自らが安全な食料の生産者であり、かつ、農村における地域づくりの主体であることを認識し、自ら生産する農産物について積極的に情報を提供するとともに、安全で安心できる農産物を安定的に生産及び供給し、農業及び農村の振興に関し主体的に取り組む責務を有する。

（市民の役割）

第5条 市民は、食料、農業及び農村が市民生活に果たしている役割の重要性についての理解と関心を深め、地域で生産される農産物の積極的な消費及び健康で豊かな食生活の実践に努めるものとする。

（事業者の役割）

第6条 食品産業の事業者は、食料、農業及び農村が市民生活に果たしている役割の重要性についての理解と関心を深め、消費者への安全で安心できる食料の円滑かつ安定的な供給に努めるものとする。

（主要施策）

第7条 市は、第2条に規定する基本理念に基づき、次に掲げる事項を、食料、農業及び農村の主要な施策として、各々の施策相互の有機的な連携を図りつつ、推進するものとする。

（1）消費者が安全で安心できる農産物を入手し、食及び農に対する信頼感を保つために必要な産地情報の提供等の施策

- (2) 学校、家庭、社会教育機関及び地域社会等と連携して次に掲げる目的を達成するために必要な施策
    - ア 食の重要性や地域農産物の生産・流通事情等の理解の促進
    - イ 健康的な食生活の推進
    - ウ 地域の食材を活かした地域密着型食生活と地域の食文化の継承
  - (3) グリーン・ツーリズム（農村地域において、自然、文化及び農業との交流を行う滞在型の余暇活動をいう。）による都市住民との交流、農業及び農村に関する情報の提供並びに学童農園等の体験を通じた農業及び農村の有する多面的機能の理解促進に必要な施策
  - (4) 市内の学校給食の食材として、地域で生産された農産物を提供し、地域の農業及び農産物に対する理解を促進する施策
  - (5) 農業の生産基盤であるほ場、農道、用排水路、ため池等の整備及び遊休農地の解消等による優良農地の確保に必要な施策
  - (6) 農業の基幹的な担い手とその後継者、多様な担い手である女性や高齢者、新規就農者等の育成及び確保に必要な施策
  - (7) 年間を通じて栽培される多種にわたる作物の振興、高品質優良農産物生産の推進による農業の収益性向上並びに経営の安定を確保できる農業の仕組みづくり及び支援に必要な施策
  - (8) 農業者及び農業団体、食品産業の事業者並びに消費者の連携強化による地域で生産される農産物の地域内での流通及び消費の促進に必要な施策
  - (9) 産学官連携による農業関連技術の研究開発及び製品化に必要な施策
  - (10) 農薬及び肥料の適正な使用、家畜排泄物等有機物資源の有効利用による土づくり等持続性の高い農業生産方式の導入に必要な施策
    - (11) 農業及び農村の持つ多面的機能を十分に発揮させるための環境整備の推進に必要な施策
    - (12) 女性農業者の社会的経済的地位の向上、農業経営及び農業政策等の意思決定への参画の促進等の条件整備による農村における女性の持つ力が発揮される男女共同参画社会の確立に必要な施策
- （食料・農業・農村基本計画の策定）

第8条 市長は、前条に規定する主要施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、安全で安心できる食料の供給並びに農業及び農村の振興に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を定めなければならない。

- 2 市長は、基本計画を定めようとするときは、あらかじめ広く市民の意見が反映されるよう十分配慮するとともに、第11条に規定する八女市食料・農業・農村政策審議会の意見を聴かなければならない。
- 3 市長は、基本計画を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。
- 4 市長は、食料、農業及び農村を取り巻く情勢の変化を勘案し、おおむね5年ごとに基本計画に検討を加え、必要があると認めるときは、これを変更しなければならない。
- 5 第2項及び第3項の規定は、基本計画の変更について準用する。

（実施状況の公表）

第9条 市長は、本市の食料、農業及び農村の状況並びに基本計画に基づく施策の実施状況をとりまとめ、毎年、公表するものとする。

（推進体制）

第10条 市長は、安全で安心できる食料の供給並びに農業及び農村の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための体制の整備に関し、必要な措置を講ずるものとする。

（食料・農業・農村政策審議会）

第11条 市に八女市食料・農業・農村政策審議会（以下「審議会」という。）を置く。

- 2 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議する。
  - (1) 基本計画の策定、施策の実施状況及び変更に関すること。
  - (2) 前号に掲げるもののほか、食料、農業及び農村に関する重要な事項
- 3 前2項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、平成17年7月1日から施行する。
- （準備行為）
- 2 この条例を施行するために必要な準備行為は、この条例の施行の日前においても行うことができる。
- （特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正）
- 3 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（昭和31年八女市条例第34号）の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

### 3. 八女市食料・農業・農村政策審議会規則

平成17年6月27日規則第27号  
改正 平成18年9月29日規則第53号  
平成22年1月29日規則第24号  
平成22年3月30日規則第34号

(趣旨)

第1条 この規則は、八女市食料・農業・農村基本条例（平成17年八女市条例第15号）第11条第3項の規定に基づき、八女市食料・農業・農村政策審議会（以下「審議会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 審議会は、委員20人以内をもって組織する。（平22規則34・一部改正）

(委員)

第3条 審議会の委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が任命し、又は委嘱する。

- (1) 知識経験者
- (2) 農業者
- (3) 農業団体が推薦する者
- (4) 消費者団体が推薦する者
- (5) その他市長が適当と認める者

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により選任する。

3 会長は、審議会の会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(部会)

第5条 審議会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、会長が指名する。

3 部会に部会長及び副部会長を置く。

4 部会長及び副部会長は、部会の委員の互選により選任する。

5 部会長は、部会の会務を総理し、部会を代表する。

6 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

7 審議会は、その定めるところにより、部会の議決をもって審議会の議決とすることができる。

(特別委員)

第6条 審議会に、特別の事項を調査させるため必要があるときは、特別委員を置くことができる。

2 特別委員は、市長が任命し、又は委嘱する。

3 特別委員は、審議会の会議において意見を述べるることができる。

4 特別委員は、当該特別の事項に関する調査が終了したときをもって解任されるものとする。

(会議)

第7条 審議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開き、議決することができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 前3項の規定は、部会の会議の議事に準用する。この場合において、「審議会」とあるのは「部会」と、「会長」とあるのは「部会長」と読み替えるものとする。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、建設経済部農業振興課において処理する。

(平18規則53・平22規則24・一部改正)

(補則)

第9条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は会長が審議会に諮って定める。附 則 この規則は、平成17年7月1日から施行する。

附 則（平成18年9月29日規則第53号）  
この規則は、平成18年10月1日から施行する。  
附 則（平成22年1月29日規則第24号）  
この規則は、平成22年2月1日から施行する。  
附 則（平成22年3月30日規則第34号）  
この規則は、公布の日から施行する。

#### 4. 八女市食料・農業・農村政策審議会委員名簿

所 属	役職等	氏 名
福岡八女農業協同組合	理事	政次 博充
八女市行政区長会	行政区長	草場 紀彦
福岡県八女普及指導センター	参事	砥綿 查一
福岡県農業総合試験場八女分場	専門研究員	池田 浩暢
八女市教育委員会	教育委員	赤司 真理子
八女市議会	議員	堤 康幸
福岡県女性農村アドバイザー		宮園佐津美
福岡県女性農村アドバイザー		古庄 瞳
福岡県指導農業士		丸林 繁美
福岡県指導農業士		野中 偉夫
福岡県青年農業士		原嶋 光保
八女市認定農業者連絡協議会	会長	野中 昇
八女市認定農業者連絡協議会	監事	高木 暁史
八女市農業農村の活性化をめざす女性の会	会長	池田さゆき
(有) 道の駅たちばな	代表取締役	中村 一範
福岡八女農業協同組合	理事	橋村 良明
八女市農業委員会	会長	月足 靖彦
八女市食生活改善推進協議会	会長	柴尾 房子
八女商工会議所	専務理事	萩尾 猛
四季菜館	代表	椿原 壽之
国立大学法人 九州大学	※特別委員 理事・副学長	福田 晋

## 5. 八女市食料・農業・農村基本計画プロジェクト会議名簿

所属	役職等	氏名
福岡県筑後農林事務所八女普及指導センター	野菜花き課長	山口 功
福岡県筑後農林事務所八女普及指導センター	地域振興課地域係	柿 恭信
福岡八女農業協同組合農業振興課	農業振興課長	荒巻 充
福岡八女農業協同組合八女地区センター	営農販売グループ長	大石 一成
福岡八女農業協同組合黒木地区センター	営農販売グループ長	野中 明彦
八女市役所 農業振興課	課長	松藤 洋治
八女市役所 農業振興課	農産園芸係長	谷口 博信
八女市役所 農業振興課	参事補佐兼農産園芸係	椎窓 孝雄
八女市役所 農業振興課	課長補佐兼総務管理係長	栗原 勝久
八女市役所 農業振興課	総務管理係主任	信國美保子
八女市役所 黒木支所	建設産業係主任	原口 勝憲
八女市役所 立花支所	建設産業係長	田中 克彦
九州大学（大学院農学研究院）	理事・副学長（教授）	福田 晋
九州大学大学院農学研究院 食料流通学分野	准教授・博士（農学）	森高 正博

## 6. 市民アンケート結果(概要、全体集計、クロス集計)

### アンケート調査結果概要

八女市食料・農業・農村基本計画の策定にあたり、農家・消費者の意向を把握するため、アンケート調査を実施しました。

#### ● 調査内容

- ・調査期間：令和3年7月1日～8月31日（回答期間は7/15～7/31の約2週間）
- ・調査方法：郵送による配布、回収
- ・調査対象：八女市が市民1,000サンプルを無作為抽出
- ・回収数：260通 [ 26.0% ] （有効回答数255通 [ 25.5% ]）

#### ● 質問内容

##### 〔問1 記入者自身について〕

##### ①お住まいの地域

- ②世帯人数
- ③性別
- ④年齢
- ⑤職業

##### ⑥農家（専、兼）・非農家

##### 〔食料・農業・農村全体について〕

問2 あなたはどの程度ご存じですか（食育、条例、地産地消ほか）

##### 〔食料について〕

問3 子どもの食育で大切だと思われること（3食とる、みんなで食べるほか）

問4 食べ残しや食材の廃棄を減らす努力をしていますか

問5 農産物をどこで購入していますか（直売所、スーパー、コンビニほか）

問6 地域で農産物購入の将来について

問7 農産物を購入するときに重視すること

問8 農産物を直売所で購入する理由

##### 〔農業について〕

問9 市の農業のあり方で重要なこと

問10 担い手や後継者確保の方法について重要なこと

問11 今後、市の農業を維持・発展していくためには消費者と生産者の関り

問12 農業の維持発展のための生産・流通・販売の取り組み

##### 〔農村について〕

問13 八女市の農村理解のための交流事業

問14 市民が情報源としている媒体

問15 食料生産以外の多面的機能で期待するもの

問16 快適な生活環境づくりに必要なこと

〔ご意見、ご希望など〕

## 八女市食料・農業・農村基本計画アンケート調査結果【全体集計】

### 問 1. 【記入者自身について】

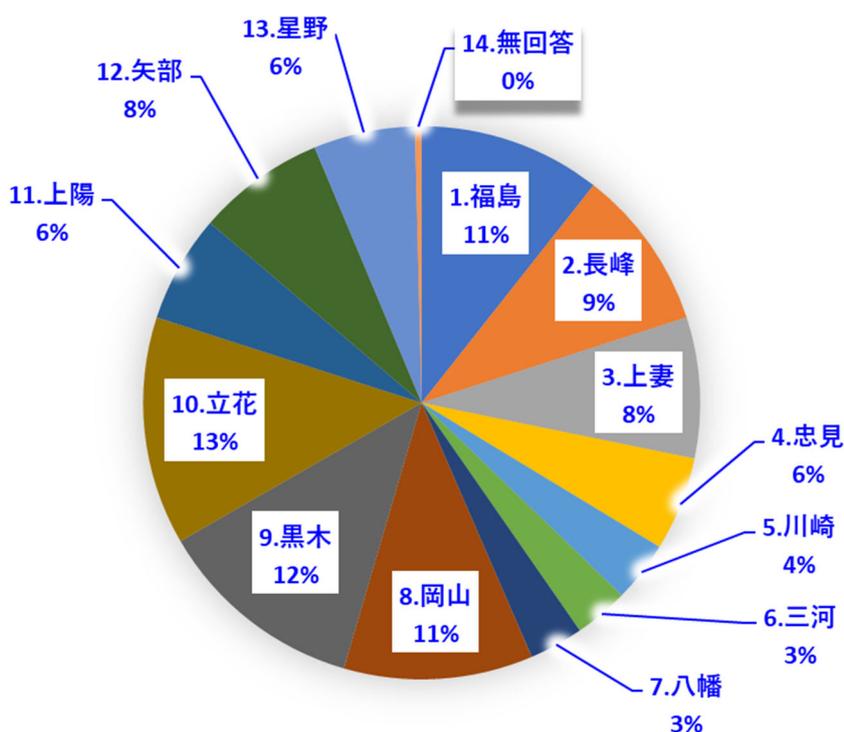
回答者の特性は、以下の通りです。

#### 問 1-1. あなたのお住まいの地域

地域については、「10.立花」、「9.黒木」、「8.岡山」、「1.福島」地域の回答が多いです。

なお、平地の回答数 139 で 54.5%、中山間地域の回答数 115 で 45.1%の割合です。八女市の人口からみると平地が 60.4%で中山間地域は 39.6%でほぼ近い割合です。

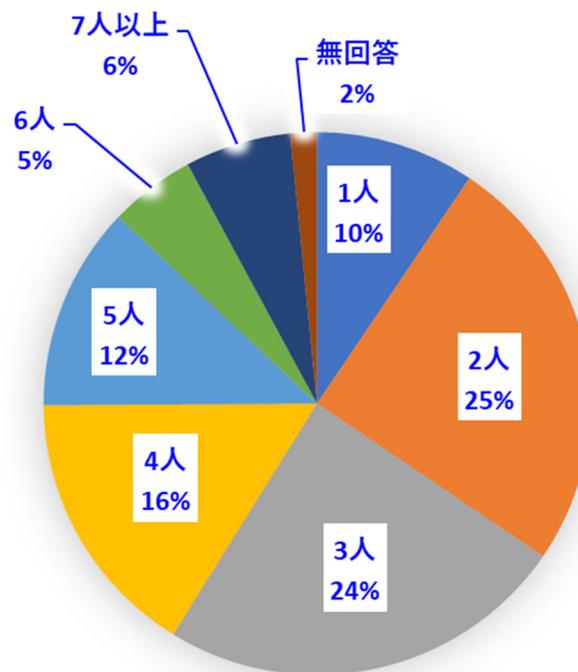
NO.	地域名	回収：n	割合：%	%	n	配布数	回収率	住民基本台帳 人口R2	割合	割合	地域区分
1	1.福島	27	10.6%	54.5%	139	500	27.8%	37,444	60.4%	60.4%	平地
2	2.長峰	24	9.4%								
3	3.上妻	21	8.2%								
4	4.忠見	14	5.5%								
5	5.川崎	9	3.5%								
6	6.三河	8	3.1%								
7	7.八幡	8	3.1%								
8	8.岡山	28	11.0%								
9	9.黒木	31	12.2%	45.1%	31	150	20.7%	9,807	15.8%	39.6%	中山間
10	10.立花	34	13.3%								
11	11.上陽	16	6.3%								
12	12.矢部	19	7.5%								
13	13.星野	15	5.9%								
14	14.無回答	1	0.4%	0.4%	1						
合計		255	100%	100.0%	255	1000	25.5%	62,016	100.0%	100.0%	



### 問 1-2. 世帯人数（あなた本人を含む）

世帯人員は「2人」が25.1%と「3人」が24.3%で多く、次いで「4人」の16.1%、「5人」の12.2%です。

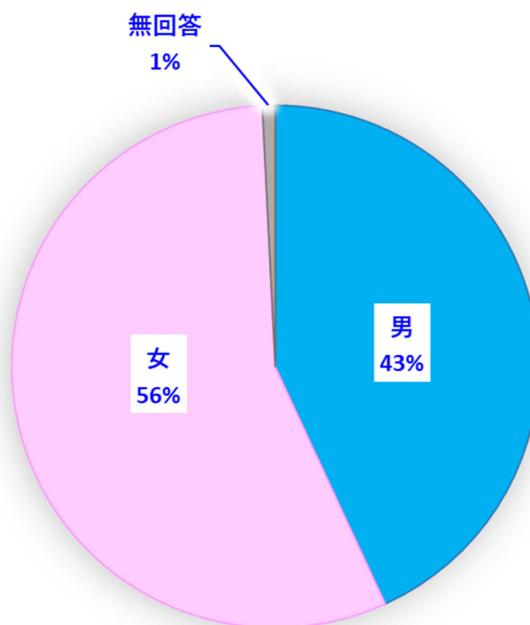
NO.	カテゴリー名	n	%
1	1人	24	9.4%
2	2人	64	25.1%
3	3人	62	24.3%
4	4人	41	16.1%
5	5人	31	12.2%
6	6人	13	5.1%
7	7人以上	16	6.3%
8	無回答	4	1.6%
合計		255	100%



### 問 1-3. あなたの性別

性別では、男性より女性の回答がやや多く、過半数を超えています。

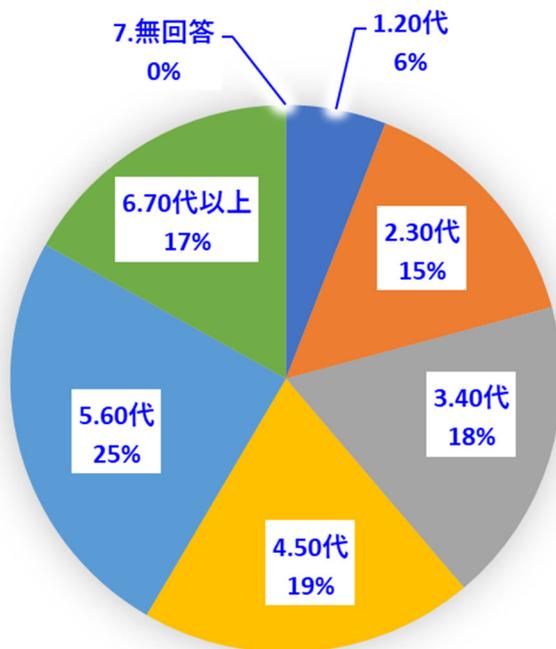
NO.	カテゴリー名	n	%
1	男	110	43.1%
2	女	143	56.1%
3	無回答	2	0.8%
合計		255	100%



#### 問 1-4. あなたの年齢

年齢別では、「60代」が24.7%と1番多く、次いで「50代」が19.6%、「40代」が18.0%、「70代以上」が16.9%と比較的、年齢の高い層の回答数が多いです。

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.20代	15	5.9%
2	2.30代	38	14.9%
3	3.40代	46	18.0%
4	4.50代	50	19.6%
5	5.60代	63	24.7%
6	6.70代以上	43	16.9%
7	7.無回答	0	0.0%
合計		255	100%

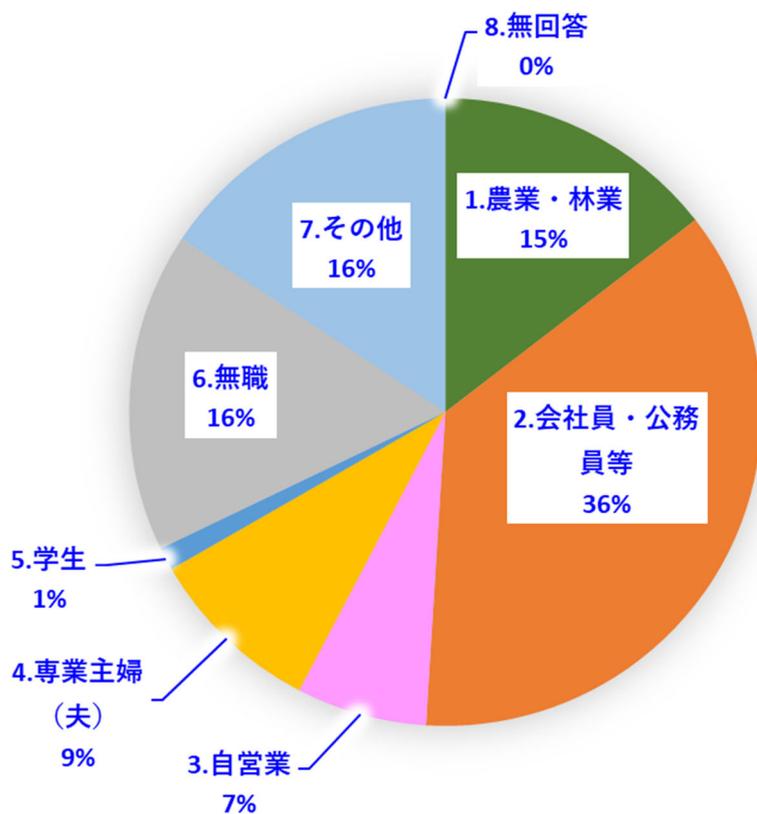


問 1-5. あなたの職業（2つ以上あるときは、主な職業に○をつけて下さい）

職業別では、「会社員・公務員等」が36.5%と1番多く、次いで「無職」が16.5%、「その他」が15.7%、「農業・林業」が14.5%となっています。「その他」の職業では「パート」の回答が多く見られました。

NO.	カテゴリー名	回収：n	割合：%	就業者	割合	産業別就業人口 H27	割合
1	1.農業・林業	37	14.5%	37	20%	6,506	20%
2	2.会社員・公務員等	93	36.5%	93	50%		
3	3.自営業	17	6.7%	17	9%		
4	4.専業主婦（夫）	23	9.0%		0%		
5	5.学生	3	1.2%		0%		
6	6.無職	42	16.5%		0%		
7	7.その他	40	15.7%	40	21%		
8	8.無回答	0	0.0%		0%		
合計		255	100%	187	100%	32,453	100%

なお、市の就業人口のうち第1次産業の割合は20%で、アンケートにおける就業者の合計187人に占める農林業が37人で20%を占めます。



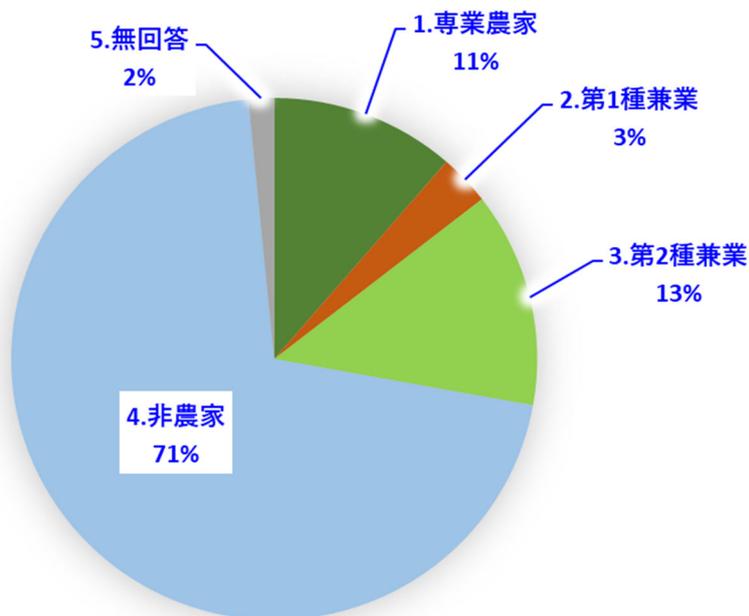
問 1-6. あなたの家は農家または非農家ですか。1つだけ選んで番号に○を付けてください。

- |                                |
|--------------------------------|
| 1. 専業農家（世帯員のなかに兼業従事者が一人もいない農家） |
| 2. 第1種兼業農家                     |
| 3. 第2種兼業農家（農業所得よりも兼業所得が多い農家）   |
| 4. 非農家                         |

農家別では、「4.非農家」が70.6%と1番多く、次いで「3.第2種兼業」が13.3%、「1.専業農家」が11.4%、「2.第1種兼業」が3.1%となっており、農家の回答数合計は27.8%に対し、非農家の回答数が7割を超えています。

NO.	カテゴリー名	回収：n	割合：%	%	八女市世帯	農家H27	戸	市世帯に占める割合
1	1.専業農家	29	11.4%	27.8%		専業	1,484	6.7%
2	2.第1種兼業	8	3.1%			第1種兼業	585	2.6%
3	3.第2種兼業	34	13.3%			第2種兼業	1,975	8.9%
4	4.非農家	180	70.6%			70.6%		
5	5.無回答	4	1.6%			自給農家	1,652	7.5%
合計		255	100%	100.0%	22,109	総農家数	4,796	21.7%

なお、市の総世帯22,109に対し総農家は4,796戸で割合は21.7%です。それからみると回答率は高いといえます。



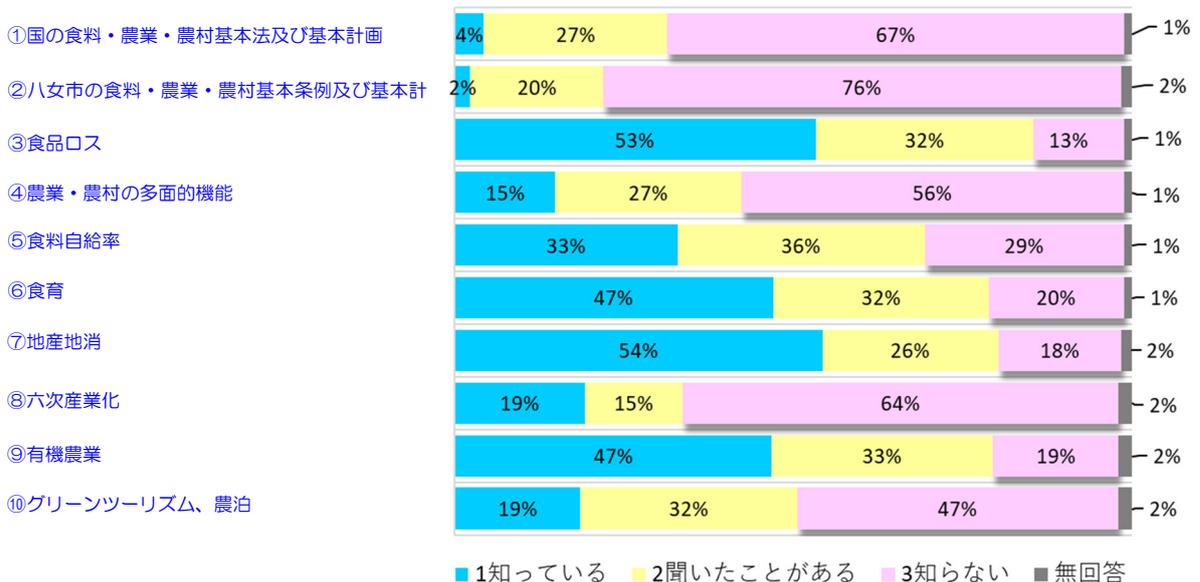
【食料・農業・農村全体について】

問2. あなたは以下のことについてどの程度ご存じですか。

以下の問について、設問ごとに該当する番号に○印を1つ付けて下さい。

施策の認知度では、「1.知っている」の回答数で「⑦地産地消」が54%、次いで「③食品ロス」が53%と高い認知度となっており、次いで「⑥食育」、「⑨有機農業」です。反対に「3.知らない」の回答数で「②八女市の食料・農業・農村基本条例及び基本計画」が76%、次いで「①国の食料・農業・農村基本法及び基本計画」が67%と低い認知度で、「⑧六次産業化」、「④農業農村の多面的機能」も低くなっています。

NO.	カテゴリー名	n					%			
		1知っている	2聞いたことがある	3知らない	無回答	回答数	1知っている	2聞いたことがある	3知らない	無回答
1	国の食料・農業・農村基本法及び基本計画	11	69	172	3	255	4%	27%	67%	1%
2	八女市の食料・農業・農村基本条例及び基本計画	6	50	195	4	255	2%	20%	76%	2%
3	食品ロス	136	82	34	3	255	53%	32%	13%	1%
4	農業・農村の多面的機能	38	70	144	3	255	15%	27%	56%	1%
5	食料自給率	84	93	75	3	255	33%	36%	29%	1%
6	食育	120	81	51	3	255	47%	32%	20%	1%
7	地産地消	138	66	46	4	254	54%	26%	18%	2%
8	六次産業化	49	37	164	5	255	19%	15%	64%	2%
9	有機農業	119	83	47	5	254	47%	33%	19%	2%
10	グリーンツーリズム、農泊	47	81	120	5	253	19%	32%	47%	2%



【年齢別】年齢が低いほど「知らない」項目が多い傾向。

	①国の食料・農業・農村基本法及び基本計画				②八女市の食料・農業・農村基本条例及び				③食品ロス				④農業・農村の多面的機能				⑤食料自給率			
	1 知っている	2 聞いたことがある	3 知らない	無回答	1 知っている	2 聞いたことがある	3 知らない	無回答	1 知っている	2 聞いたことがある	3 知らない	無回答	1 知っている	2 聞いたことがある	3 知らない	無回答	1 知っている	2 聞いたことがある	3 知らない	無回答
1. 20代	0%	13%	87%	0%	0%	13%	87%	0%	33%	33%	33%	0%	7%	20%	73%	0%	33%	13%	53%	0%
2. 30代	3%	13%	82%	3%	0%	11%	87%	3%	50%	32%	16%	3%	11%	29%	58%	3%	24%	53%	21%	3%
3. 40代	0%	15%	85%	0%	0%	7%	93%	0%	39%	50%	11%	0%	13%	20%	67%	0%	33%	30%	37%	0%
4. 50代	4%	34%	62%	0%	4%	18%	78%	0%	60%	32%	8%	0%	10%	24%	66%	0%	28%	40%	32%	0%
5. 60代	8%	33%	59%	0%	5%	33%	62%	0%	62%	25%	11%	2%	14%	41%	43%	2%	38%	41%	21%	0%
6. 70代以上	7%	40%	49%	5%	2%	26%	65%	7%	58%	23%	16%	2%	30%	21%	47%	2%	40%	26%	30%	5%

	⑥食育				⑦地産地消				⑧六次産業化				⑨有機農業				⑩グリーンツーリズム、農泊			
	1 知っている	2 聞いたことがある	3 知らない	無回答	1 知っている	2 聞いたことがある	3 知らない	無回答												
1. 20代	53%	13%	33%	0%	60%	27%	13%	0%	20%	0%	80%	0%	53%	7%	40%	0%	27%	13%	60%	0%
2. 30代	47%	32%	18%	3%	55%	21%	21%	3%	16%	18%	63%	3%	32%	34%	32%	3%	13%	26%	58%	3%
3. 40代	48%	33%	20%	0%	48%	37%	15%	0%	15%	15%	70%	0%	41%	41%	17%	0%	13%	30%	57%	0%
4. 50代	48%	40%	12%	0%	58%	26%	16%	0%	18%	18%	64%	0%	44%	44%	12%	0%	22%	30%	48%	0%
5. 60代	49%	30%	21%	0%	57%	27%	14%	2%	22%	17%	59%	2%	55%	32%	11%	2%	21%	43%	34%	2%
6. 70代以上	40%	30%	26%	5%	50%	17%	29%	5%	23%	7%	63%	7%	56%	19%	19%	7%	19%	33%	42%	7%

【食料について】

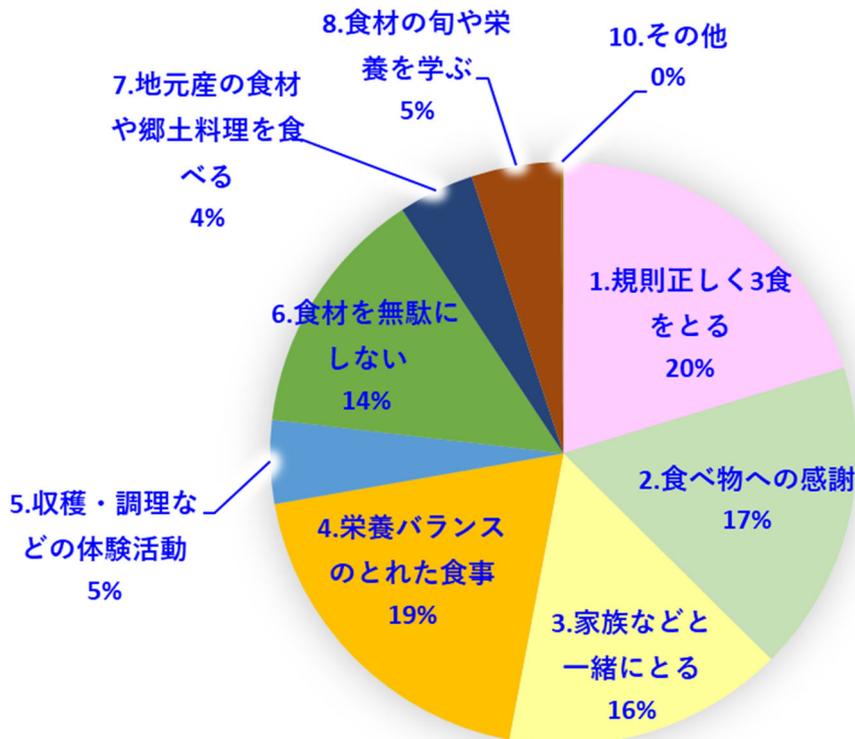
問3. 子どもの食育で大切だと思われることを最大3つまで選んで番号に○印をつけて下さい。

食育への重要度では、「1.規則正しく3食をとる」が20.3%と1番多く、次いで「4.栄養バランスのとれた食事」が19.2%、「2.食べ物への感謝」が17.2%、「3.家族などと一緒にとる」が15.5%となっています。

○その他の回答

・「7.地元産の食材や郷土料理を食べる」にプラスして、生産から食卓に届くまでの一連の流れを知る

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.規則正しく3食をとる	140	20.3%
2	2.食べ物への感謝	119	17.2%
3	3.家族などと一緒にとる	107	15.5%
4	4.栄養バランスのとれた食事	133	19.2%
5	5.収穫・調理などの体験活動	32	4.6%
6	6.食材を無駄にしない	96	13.9%
7	7.地元産の食材や郷土料理を食べる	29	4.2%
8	8.食材の旬や栄養を学ぶ	34	4.9%
9	9.農業体験や収穫体験	0	0.0%
10	10.その他	1	0.1%
合計		691	100%



【性別】 男性は「規則正しくとる」、女性は「栄養バランス」が首位

	1. 規則正しく3食をとる	2. 食べ物への感謝	3. 家族などと一緒にとる	4. 栄養バランスのとれた食事	5. 収穫・調理などの体験活動	6. 食材を無駄にしない	7. 地元産の食材や郷土料理を食べ	8. 食材の旬や栄養を学ぶ	9. 農業体験や収穫体験
男	20.3%	18.1%	12.7%	17.8%	3.8%	14.6%	3.2%	3.2%	6.3%
女	17.7%	14.4%	15.6%	17.9%	4.7%	11.6%	4.5%	5.7%	7.8%

【年齢別】 60代と70代は「規則正しくとる」、30代と50代は「栄養バランス」、20代と40代は「食べ物への感謝」が首位

	1. 規則正しく3食をとる	2. 食べ物への感謝	3. 家族などと一緒にとる	4. 栄養バランスのとれた食事	5. 収穫・調理などの体験活動	6. 食材を無駄にしない	7. 地元産の食材や郷土料理を食べる	8. 食材の旬や栄養を学ぶ	9. 農業体験や収穫体験
1. 20代	14%	19%	19%	14%	7%	12%	2%	5%	7%
2. 30代	15%	14%	16%	23%	6%	9%	4%	9%	5%
3. 40代	16%	20%	16%	16%	5%	11%	2%	7%	7%
4. 50代	18%	14%	17%	19%	6%	15%	3%	1%	7%
5. 60代	22%	14%	11%	18%	4%	13%	5%	3%	9%
6. 70代以上	24%	18%	11%	16%	0%	16%	6%	4%	6%

【地域別】 平地は「栄養バランス」、中山間は「規則正しくとる」が首位

	1. 規則正しく3食をとる	2. 食べ物への感謝	3. 家族などと一緒にとる	4. 栄養バランスのとれた食事	5. 収穫・調理などの体験活動	6. 食材を無駄にしない	7. 地元産の食材や郷土料理を食べる	8. 食材の旬や栄養を学ぶ	9. 農業体験や収穫体験
平地	18%	16%	14%	20%	5%	13%	3%	6%	6%
中山間	20%	16%	15%	15%	4%	13%	5%	3%	9%

【農家別】 農家は「規則正しくとる」、非農家は「栄養バランス」が首位

	1. 規則正しく3食をとる	2. 食べ物への感謝	3. 家族などと一緒にとる	4. 栄養バランスのとれた食事	5. 収穫・調理などの体験活動	6. 食材を無駄にしない	7. 地元産の食材や郷土料理を食べる	8. 食材の旬や栄養を学ぶ	9. 農業体験や収穫体験
全農家	21%	18%	14%	13%	4%	13%	6%	4%	7%
非農家	18%	15%	15%	20%	5%	13%	3%	5%	7%

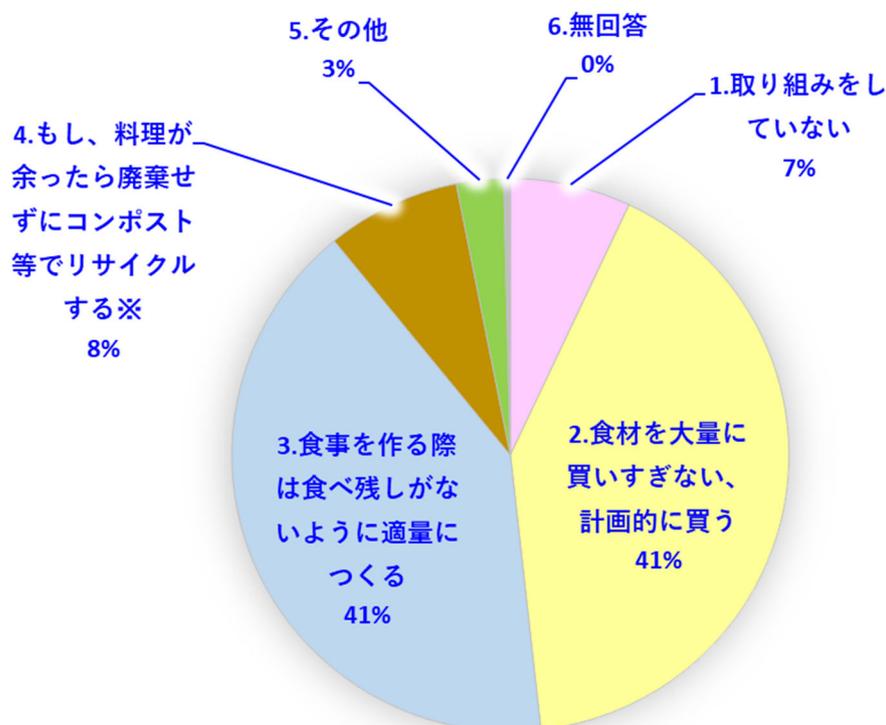
問 4. 食べ残しや食材の廃棄を減らす取り組みをしていますか。次の中から1つ選んで番号に○印をつけて下さい。

食品ロスへの取組は、「2.食材を大量に買いすぎない、計画的に買う」と「3.食品を作る際は食べ残しがないように適量につくる」を合わせて8割を超えた結果となり、市民の計画的な取り組みが目立ちます。

○その他の回答

- 料理が余ったら捨てずにリメイクして食べきる
- 冷凍し翌日食べる
- 外食では大量に注文せず、その都度、食べられる量を注文する

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.取り組みをしていない	18	7.0%
2	2.食材を大量に買いすぎない、計画的に買う	106	41.2%
3	3.食事を作る際は食べ残しがないように適量につくる	105	40.9%
4	4.もし、料理が余ったら廃棄せずにコンポスト等でリサイクルする※	20	7.8%
5	5.その他	7	2.7%
6	6.無回答	1	0.4%
合計		257	100%



【年齢別】30代と60代と70代は「適量つくる」、40代と50代は「大量に買いすぎない」が1番多い

	1. 取り 組みをしていない	2. 食材 を大量に 買いすぎ ない、計 画的に買 う	3. 食事 を作る際 は食べ残 しがない ように適 量につく	4. も し、料理 が余った ら廃棄せ ずにコン ポスト等	5. その 他
1. 20代	13%	33%	33%	13%	7%
2. 30代	8%	34%	<b>47%</b>	5%	5%
3. 40代	2%	<b>45%</b>	43%	11%	0%
4. 50代	6%	<b>62%</b>	26%	0%	6%
5. 60代	3%	41%	<b>46%</b>	8%	0%
6. 70代以	16%	23%	<b>45%</b>	14%	2%

【地域別】平地は「買いすぎない」、中山間は「適量つくる」が首位

	1. 取り 組みをしていない	2. 食材 を大量に 買いすぎ ない、計 画的に買 う	3. 食事 を作る際 は食べ残 しがない ように適 量につく	4. も し、料理 が余った ら廃棄せ ずにコン ポスト等	5. その 他
平地	5%	<b>46%</b>	<b>39%</b>	7%	4%
中山間	9%	35%	<b>44%</b>	9%	2%

【農家別】農家は「適量つくる」、非農家は「買いすぎない」が首位

	1. 取り 組みをしていない	2. 食材 を大量に 買いすぎ ない、計 画的に買 う	3. 食事 を作る際 は食べ残 しがない ように適 量につく	4. も し、料理 が余った ら廃棄せ ずにコン ポスト等	5. その 他
全農家	11%	34%	<b>39%</b>	11%	3%
非農家	5%	<b>44%</b>	42%	7%	3%

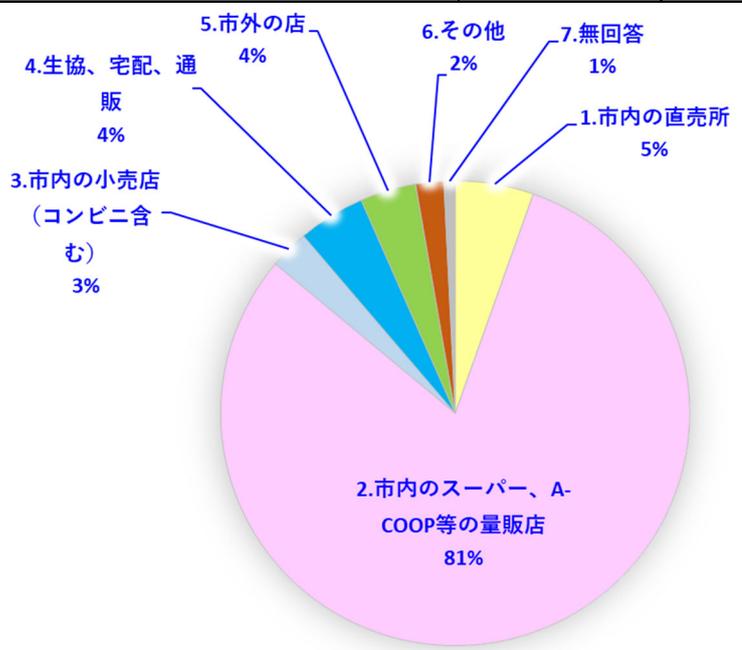
問5. 農産品（米、野菜、果物、肉類、総菜等）を主にどこで購入していますか。次の中から主なものを1つ選んで番号に○印をつけて下さい。

食料の主な購入先は、「2.市内のスーパー、A-COOP等の量販店」が80.7%と圧倒的に多い結果となっています。

○その他の回答

- 自家製
- 親類から購入
- 生産者より直接購入
- 道の駅で購入

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.市内の直売所	14	5.4%
2	2.市内のスーパー、A-COOP等の量販店	209	80.7%
3	3.市内の小売店（コンビニ含む）	7	2.7%
4	4.生協、宅配、通販	12	4.6%
5	5.市外の店	10	3.9%
6	6.その他	5	1.9%
7	7.無回答	2	0.8%
合計		259	100%



【地域別】全体と同じ傾向

	1. 市内の直売所	2. 市内のスーパー、A-COOP等の量販店	3. 市内の小売店（コンビニ含む）	4. 生協、宅配、通販	5. 市外の店	6. その他
平地	3%	84%	2%	4%	4%	1%
中山間	8%	77%	3%	5%	3%	3%

【農家別】全体と同じ傾向

	1. 市内の直売所	2. 市内のスーパー、A-COOP等の量販店	3. 市内の小売店（コンビニ含む）	4. 生協、宅配、通販	5. 市外の店	6. その他
全農家	3%	81%	3%	7%	3%	3%
非農家	6%	81%	3%	4%	4%	2%

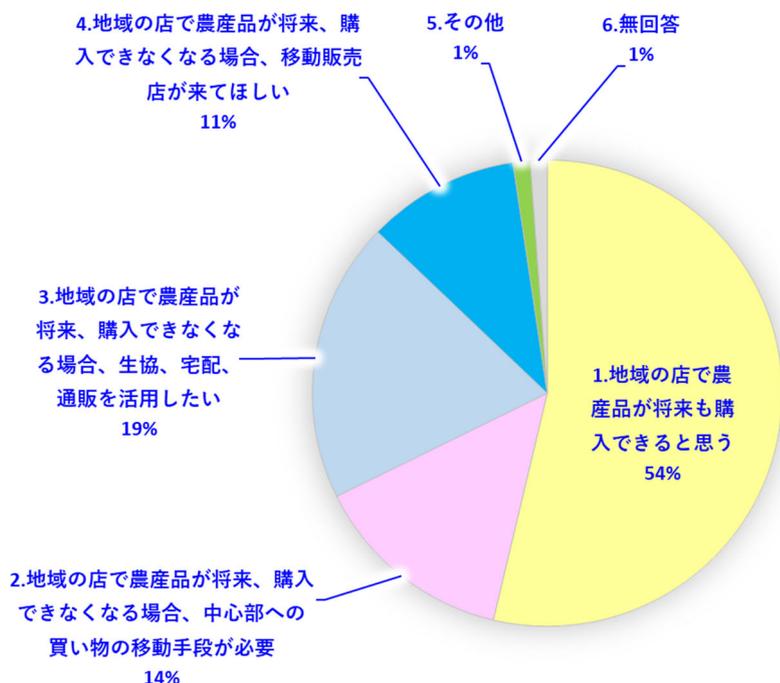
問 6. 農産品（米、野菜、果物、肉類、総菜等）を地域で購入するときの将来（5年後くらい）についてどう思われますか。主なものを1つ選んで番号に○印をつけて下さい。

近い将来の地域での農産品購入に対する懸念については、「1. 地域の店で農産品が将来も購入できると思う」が53.7%で過半数を占めていますが、それ以外の「2～4. 購入できなくなる場合～」の回答を合わせると44.0%となり半数に迫る割合となっており、将来の農産品購入手段に対する市民の不安も感じられます。

○その他の回答

- ・自給自足する
- ・薬屋みたいに個人宅にきて販売してほしい

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.地域の店で農産品が将来も購入できると思う	138	53.7%
2	2.地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、中心部への買い物の移動手段が必要	36	14.0%
3	3.地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、生協、宅配、通販を活用したい	50	19.5%
4	4.地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、移動販売店が来てほしい	27	10.5%
5	5.その他	3	1.2%
6	6.無回答	3	1.2%
合計		257	100%



【性別】 2位は、男性が「移手段確保」、女性が「生協・宅配・通販」

	1. 地域の店で農産品が将来も購入できると思う	2. 地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、中心部への買い物の移手段が必要	3. 地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、生協、宅配、通販を活用したい	4. 地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、移動販売店が来てほしい
男	58%	15%	12%	12%
女	50%	13%	26%	10%

【地域別】 中山間は過半数が将来の購入に不安。特に、星野地域は「移手段が必要」

	1. 地域の店で農産品が将来も購入できると思う	2. 地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、中心部への買い物の移手段が必要	3. 地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、生協、宅配、通販を活用したい	4. 地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、移動販売店が来てほしい	5. その他	無回答
1. 福島	67%	7%	19%	7%	0%	0%
2. 長峰	67%	8%	4%	8%	8%	4%
3. 上妻	71%	10%	5%	14%	0%	0%
4. 忠見	79%	7%	14%	0%	0%	0%
5. 川崎	67%	11%	22%	0%	0%	0%
6. 三河	63%	0%	25%	13%	0%	0%
7. 八幡	38%	13%	13%	25%	0%	13%
8. 岡山	50%	14%	32%	4%	0%	0%
9. 黒木	55%	13%	23%	10%	0%	0%
10. 立花	44%	12%	26%	18%	0%	0%
11. 上陽	38%	19%	25%	19%	0%	0%
12. 矢部	43%	19%	24%	10%	5%	0%
13. 星野	13%	53%	13%	13%	0%	7%
平地	63%	9%	17%	8%	1%	1%
中山間	42%	20%	23%	14%	1%	1%

【農家別】 1位は全体と同じ、2位は農家が「移手段確保」、非農家が「宅配、生協、通販」

	1. 地域の店で農産品が将来も購入できると思う	2. 地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、中心部への買い物の移動	3. 地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、生協、宅配、通販を活用	4. 地域の店で農産品が将来、購入できなくなる場合、移動販売店が来てほしい	5. その他	無回答
全農家	51%	18%	16%	14%	0%	1%
非農家	54%	13%	21%	9%	1%	1%

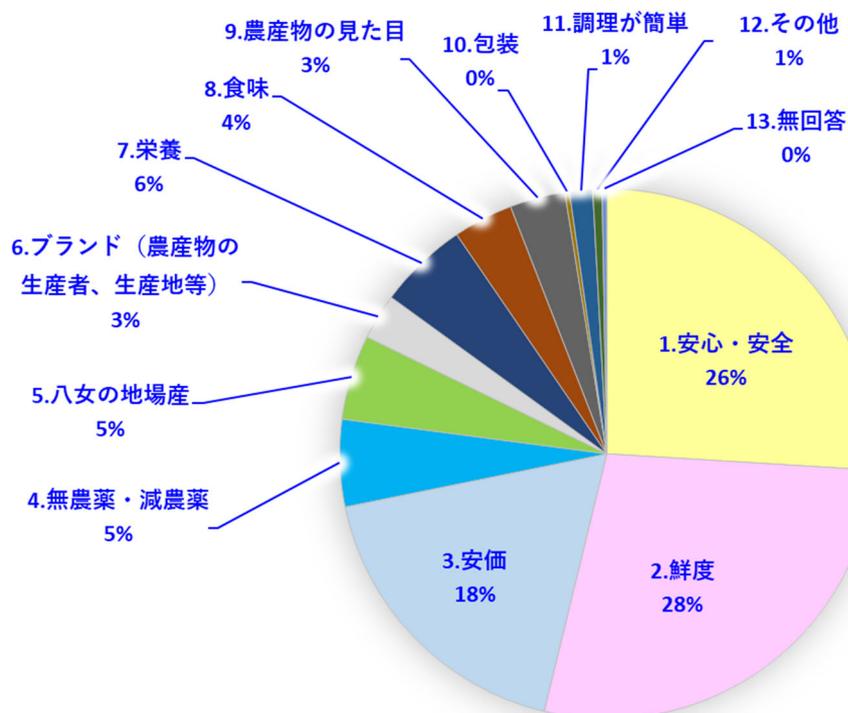
問 7. 農産物（米、野菜、果物、肉類）を購入するときに重視していることは何ですか。  
次の中から最大3つまで選んで番号に○印をつけて下さい。

農産物購入時に重視していることについては、「2. 鮮度」が27.8%と1番多く、次いで「1. 安心・安全」が26.0%、「3. 安価」が18.0%となっており、市民の三大重要度となっています。

○その他の回答

- ・国産であること

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.安心・安全	186	26.0%
2	2.鮮度	199	27.8%
3	3.安価	129	18.0%
4	4.無農薬・減農薬	38	5.3%
5	5.八女の地場産	37	5.2%
6	6.ブランド（農産物の生産者、生産地等）	20	2.8%
7	7.栄養	39	5.4%
8	8.食味	26	3.6%
9	9.農産物の見た目	24	3.4%
10	10.包装	2	0.3%
11	11.調理が簡単	10	1.4%
12	12.その他	4	0.6%
13	13.無回答	2	0.3%
合計		716	100%



【年齢別】20代は「安価」が一番多い

	1. 安心・安全	2. 鮮度	3. 安価	4. 無農薬・減農薬	5. 八女の地場産	6. ブランド（農産物の生産者、生産地等）	7. 栄養	8. 食味	9. 農産物の見た目	10. 包装	11. 調理が簡単
1. 20代	28%	23%	28%	5%	8%	0%	0%	0%	10%	0%	0%
2. 30代	21%	24%	20%	5%	6%	2%	6%	6%	7%	0%	2%
3. 40代	27%	28%	20%	5%	3%	5%	6%	2%	1%	1%	1%
4. 50代	24%	30%	20%	3%	5%	3%	5%	5%	2%	0%	3%
5. 60代	29%	28%	14%	6%	6%	3%	8%	3%	2%	0%	1%
6. 70代以上	26%	29%	14%	9%	5%	2%	3%	3%	3%	1%	1%

【地域別】全体と同じ傾向

	1. 安心・安全	2. 鮮度	3. 安価	4. 無農薬・減農薬	5. 八女の地場産	6. ブランド（農産物の生産者、生産地等）	7. 栄養	8. 食味	9. 農産物の見た目	10. 包装	11. 調理が簡単
平地	27%	28%	19%	5%	4%	3%	5%	3%	4%	0%	2%
中山間	25%	28%	16%	6%	7%	3%	6%	4%	2%	0%	1%

【農家別】全体と同じ傾向

	1. 安心・安全	2. 鮮度	3. 安価	4. 無農薬・減農薬	5. 八女の地場産	6. ブランド（農産物の生産者、生産地等）	7. 栄養	8. 食味	9. 農産物の見た目	10. 包装	11. 調理が簡単
全農家	25%	26%	16%	6%	6%	3%	6%	7%	4%	1%	1%
非農家	27%	29%	19%	5%	5%	3%	5%	2%	3%	0%	2%

問8. 農産物（米、野菜、果物、肉類）を八女市内の直売所で購入する理由は何ですか。次の中から最大3つまで選んで番号に○印をつけて下さい。利用していない場合は8.を選んでください。

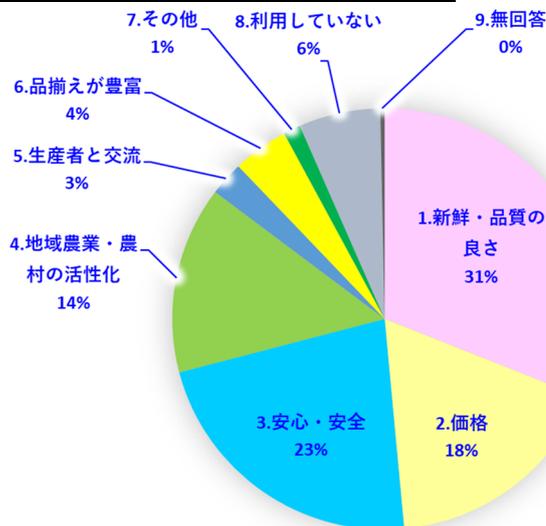
農産物を八女市内の直売所で購入する理由については、「1. 新鮮・品質の良さ」が31.0%と1番多く、次いで「3. 安心・安全」が22.4%、「2. 価格」が17.5%となっており、問7同様に直売所においても市民の三大重要度となっています。

また、「4. 地域農業・農村の活性化」に貢献する意見も見られます。

○その他の回答

- ・利便性がよい
- ・遠出したくないから
- ・地産地消
- ・特にないが、市内で買う。
- ・ロハス（健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイルのこと）

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.新鮮・品質の良さ	190	31.0%
2	2.価格	107	17.5%
3	3.安心・安全	137	22.4%
4	4.地域農業・農村の活性化	88	14.4%
5	5.生産者と交流	16	2.6%
6	6.品揃えが豊富	26	4.2%
7	7.その他	8	1.3%
8	8.利用していない	38	6.2%
9	9.無回答	2	0.3%
合計		612	100%



【地域別】全体と同じ傾向

	1. 新鮮・品質の良さ	2. 価格	3. 安心・安全	4. 地域農業・農村の活性化	5. 生産者との交流	6. 品揃え	7. その他	8. 利用していない
平地	31%	17%	22%	15%	2%	4%	2%	8%
中山間	31%	18%	23%	14%	3%	5%	1%	4%

【農家別】全体と同じ傾向

	1. 新鮮・品質の良さ	2. 価格	3. 安心・安全	4. 地域農業・農村の活性化	5. 生産者との交流	6. 品揃え	7. その他	8. 利用していない
全農家	32%	18%	21%	16%	3%	4%	1%	4%
非農家	31%	17%	23%	14%	2%	4%	1%	7%

【農業について】

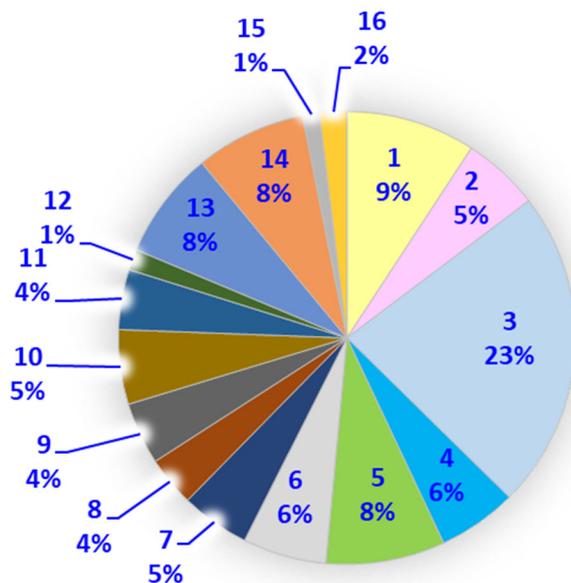
問9. 八女市の農業の今後のあり方で重要なことは何だと考えますか。下の1.～15.の中から最大3つまで選んで番号に○印をつけて下さい。

八女市の農業の今後のあり方で重要なことについては、「3. 担い手や農業後継者の育成、経営者視点の農業者の育成」が22.8%と1番多く、次いで「1. 現在の営農（農作物の種類や栽培面積、労働力）の維持」が9.2%、「5. 地域に合った作物づくり」が8.4%となっており、農業後継者不足への不安が感じられます。

○その他の回答

- 農業で生活できるよう、税のかけ方の見直し
- 過去との決別、変化の受け入れ
- 猪、カラス等の対策補助
- 農村への接点がありませんので分からない

NO.	カテゴリー名	n	%
1	現在の営農（農作物の種類や栽培面積、労働力）の維持	62	9.2%
2	農家が大規模経営できる基盤整備・農地集積と支援	37	5.5%
3	担い手や農業後継者の育成、経営者視点の農業者の育成	154	22.8%
4	企業参入や法人化	38	5.6%
5	地域に合った作物づくり	57	8.4%
6	無農薬・減農薬・有機栽培などの作物作り	40	5.9%
7	地域の農産物を活かした農産物加工品づくり	33	4.9%
8	スマート農業の推進	24	3.6%
9	災害に強い農業の推進	30	4.4%
10	有害鳥獣対策による農作物の保護	36	5.3%
11	農村景観の保全や自然環境と共生した農業の推進	29	4.3%
12	都市との交流、道の駅や都市への販路拡大、農業と農業外の連携	10	1.5%
13	地産地消と食料自給率の向上	52	7.7%
14	耕作放棄地対策による景観維持、農地の維持	53	7.8%
15	その他	8	1.2%
16	無回答	13	1.9%
合計		676	100%



【地域別】全体と異なるのは、中山間は2位以降が「耕作放棄地対策」、「有害鳥獣対策」、特に川崎地域が「耕作放棄地対策」、「地域に合った作物」

	1. 現在の営農（農作物の種類や栽培面積、労働力）の維持	2. 農家が大規模経営できる基盤整備・農地集積と支援	3. 担い手や農業後継者の育成、経営者視点の農業者の育成	4. 企業参入や法人化	5. 地域に合った作物づくり	6. 無農薬・減農薬・有機栽培などの作物作り	7. 地域の農産物を活かした農産物加工品づくり	8. スマート農業の推進	9. 災害に強い農業の推進	10. 有害鳥獣対策による農作物の保護	11. 農村景観の保全や自然環境と共生した農業の推進	12. 都市との交流	13. 地産地消と食料自給率の向上	14. 耕作放棄地対策による景観維持、農地の維持
1. 福島	4%	6%	27%	10%	10%	4%	3%	6%	4%	1%	7%	1%	8%	6%
2. 長峰	9%	3%	23%	3%	5%	5%	11%	3%	2%	5%	6%	2%	15%	5%
3. 上妻	14%	7%	25%	2%	12%	9%	7%	2%	2%	2%	4%	2%	7%	5%
4. 忠見	7%	7%	24%	10%	10%	7%	5%	5%	7%	0%	2%	0%	5%	10%
5. 川崎	4%	8%	16%	4%	16%	8%	4%	0%	12%	0%	8%	0%	4%	16%
6. 三河	9%	4%	26%	9%	9%	4%	13%	9%	4%	0%	0%	0%	9%	4%
7. 八幡	12%	6%	24%	12%	0%	0%	12%	0%	6%	0%	6%	0%	12%	0%
8. 岡山	15%	8%	19%	5%	12%	3%	1%	7%	8%	4%	4%	1%	7%	5%
9. 黒木	13%	8%	17%	7%	6%	5%	4%	2%	6%	10%	1%	0%	5%	11%
10. 立花	8%	4%	26%	4%	9%	10%	1%	2%	3%	10%	3%	2%	8%	8%
11. 上陸	8%	0%	23%	5%	8%	5%	5%	5%	3%	13%	5%	3%	5%	10%
12. 矢部	6%	4%	27%	4%	4%	4%	4%	2%	4%	10%	6%	4%	10%	13%
13. 星野	6%	3%	24%	3%	9%	12%	9%	3%	0%	3%	6%	3%	6%	9%
平地	10%	6%	23%	6%	10%	5%	6%	4%	5%	2%	5%	1%	9%	6%
中山間	9%	5%	23%	5%	7%	7%	4%	3%	4%	9%	4%	2%	7%	10%

【農家別】全体と同じ傾向が上位。3位は農家が「鳥獣対策」、「耕作放棄地対策」、非農家が「地産地消」が2位に入る。

	1. 現在の営農（農作物の種類や栽培面積、労働力）の維持	2. 農家が大規模経営できる基盤整備・農地集積と支援	3. 担い手や農業後継者の育成、経営者視点の農業者の育成	4. 企業参入や法人化	5. 地域に合った作物づくり	6. 無農薬・減農薬・有機栽培などの作物作り	7. 地域の農産物を活かした農産物加工品づくり	8. スマート農業の推進	9. 災害に強い農業の推進	10. 有害鳥獣対策による農作物の保護	11. 農村景観の保全や自然環境と共生した農業の推進	12. 都市との交流	13. 地産地消と食料自給率の向上	14. 耕作放棄地対策による景観維持、農地の維持
全農家	11%	5%	20%	6%	7%	5%	3%	4%	6%	10%	5%	1%	6%	10%
非農家	9%	5%	24%	5%	9%	7%	6%	4%	4%	4%	4%	1%	9%	7%

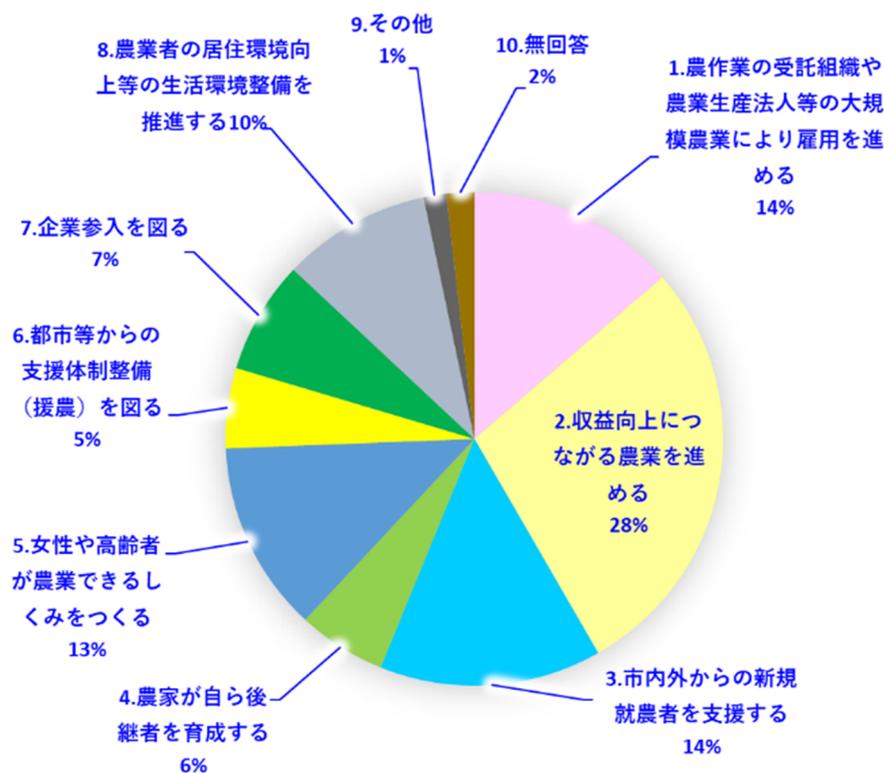
問 10. 八女市の農業の担い手や後継者確保の方法について重要なことは何だと考えますか。最大3つまで選んで番号に○印をつけて下さい。

八女市の農業の担い手や後継者確保の方法について重要なことについては、「2. 収益向上につながる農業を進める」が 28.1%と 1 番多く、次いで「3. 市内外からの新規就農者を支援する」が 14.4%、「1. 農作業の受託組織や農業生産法人等の大規模農業により雇用を進める」が 13.6%、「5. 女性や高齢者が農業できるしくみをつくる」が 12.5%となっており、農業収益向上とともに農業者の確保に向けた施策強化の必要性がみられます。

○その他の回答

- ・農業をすることによってメリットになることを増やす。経費の補助事業を増やす
- ・兼業農家がしやすい援助
- ・若い無職者が多くいるので、農業も選択肢となるようハローワークで繋げる
- ・農業の魅力の発信
- ・教育で農業への夢を育てる

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.農作業の受託組織や農業生産法人等の大規模農業により雇用を進める	83	13.6%
2	2.収益向上につながる農業を進める	171	28.1%
3	3.市内外からの新規就農者を支援する	88	14.4%
4	4.農家が自ら後継者を育成する	35	5.7%
5	5.女性や高齢者が農業できるしくみをつくる	76	12.5%
6	6.都市等からの支援体制整備（援農）を図る	32	5.3%
7	7.企業参入を図る	45	7.4%
8	8.農業者の居住環境向上等の生活環境整備を推進する	59	9.7%
9	9.その他	9	1.5%
10	10.無回答	11	1.8%
合計		609	100%



【性別】第2位と第3位は、男性が「農作業の受託などで雇用を進める」、「新規就農者支援」、女性が「新規就農者支援」、「女性や高齢者が農業できるしくみ」

	1. 農作業の受託組織や農業生産法人等の大規模農業により雇用を進める	2. 収益向上につながる農業を進める	3. 市内外からの新規就農者を支援する	4. 農家が自ら後継者を育成する	5. 女性や高齢者が農業できるしくみをつくる	6. 都市等からの支援体制整備（援農）を図る	7. 企業参入を図る	8. 農業者の居住環境向上等の生活環境整備を推進する	9. その他	無回答
男	18%	27%	13%	4%	10%	6%	9%	9%	1%	2%
女	10%	29%	16%	7%	14%	5%	6%	10%	1%	2%

【地域別】全体と異なるのは、平地の2位以下が「農作業受委託等大規模農業で雇用を進める」、「新規就農支援」、中山間が「新規就農支援」、「高齢者や女性ができる農業」、特に八幡地域と矢部地域が「就農者支援」が1位

	1. 農作業の受託組織や農業生産法人等の大規模農業により雇用を進める	2. 収益向上につながる農業を進める	3. 市内外からの新規就農者を支援する	4. 農家が自ら後継者を育成する	5. 女性や高齢者が農業できるしくみをつくる	6. 都市等からの支援体制整備（援農）を図る	7. 企業参入を図る	8. 農業者の居住環境向上等の生活環境整備を推進する	9. その他	無回答
1. 福島	14%	28%	19%	6%	16%	3%	6%	6%	2%	0%
2. 長峰	17%	27%	13%	2%	8%	3%	8%	17%	3%	2%
3. 上妻	22%	24%	13%	9%	11%	2%	5%	15%	0%	0%
4. 忠見	17%	25%	14%	0%	8%	14%	11%	6%	3%	3%
5. 川崎	19%	31%	12%	12%	0%	0%	15%	12%	0%	0%
6. 三河	17%	30%	13%	13%	9%	0%	13%	4%	0%	0%
7. 八幡	6%	13%	25%	0%	13%	13%	19%	0%	0%	13%
8. 岡山	13%	35%	8%	7%	12%	7%	10%	3%	3%	2%
9. 黒木	9%	32%	12%	5%	17%	3%	8%	9%	1%	3%
10. 立花	10%	29%	16%	6%	13%	11%	5%	9%	0%	1%
11. 上陽	9%	31%	9%	3%	17%	6%	6%	14%	0%	6%
12. 矢部	15%	17%	24%	7%	15%	2%	2%	15%	2%	0%
13. 星野	10%	33%	17%	3%	13%	7%	0%	10%	3%	3%
平地	16%	28%	14%	6%	10%	5%	9%	9%	2%	1%
中山間	11%	29%	15%	5%	15%	6%	5%	11%	1%	2%

【農家別】全体と異なるのは、農家の2位以下が「農家の居住環境向上」、「新規就農支援」で、非農家が「農作業受委託等大規模農業で雇用を進める」、「新規就農支援」

	1. 農作業の受託組織や農業生産法人等の大規模農業により雇用を進める	2. 収益向上につながる農業を進める	3. 市内外からの新規就農者を支援する	4. 農家が自ら後継者を育成する	5. 女性や高齢者が農業できるしくみをつくる	6. 都市等からの支援体制整備（援農）を図る	7. 企業参入を図る	8. 農業者の居住環境向上等の生活環境整備を推進する	9. その他	無回答
全農家	10%	33%	13%	7%	12%	4%	3%	14%	1%	3%
非農家	15%	27%	15%	5%	13%	6%	9%	8%	2%	1%

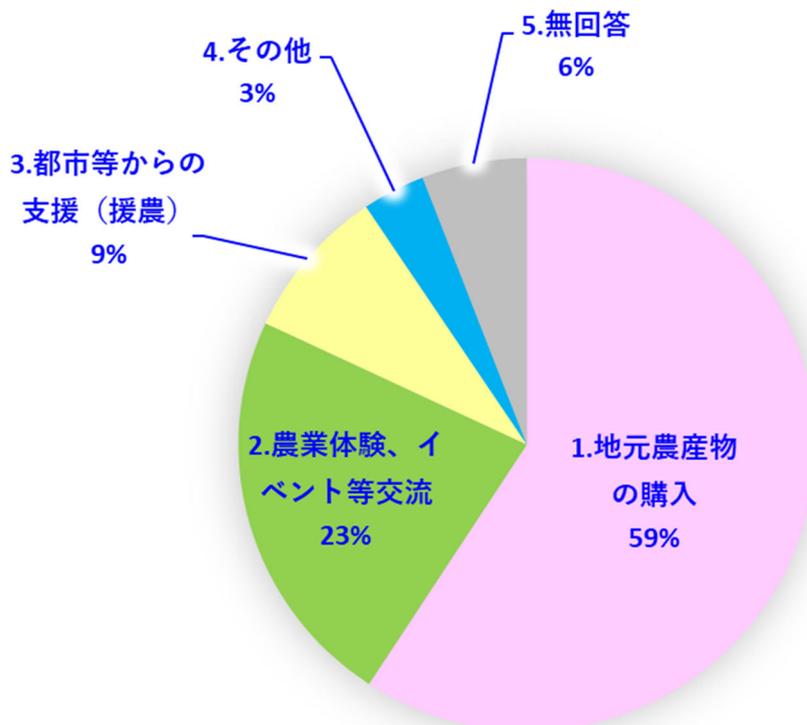
問 11. 八女市の農業を維持するうえで、消費者と生産者との関わりはどのようにすれば良いですか。  
1つ選んで番号に○印をつけて下さい。

八女市の農業維持に向けた取り組みの中で消費者と生産者の関わる方法については、「1. 地元農産物の購入」が59.2%と圧倒的に多く、次いで「2. 農業体験、イベント等交流」が22.7%であり、「3. 都市等からの支援（援農）」は8.6%と少ない結果となっています。

○その他の回答

- ネットを使いインパクトのある宣伝をする
- 八女農業高校と研究チームを構成する
- 形や色などにこだわらず、新鮮さに変わりなければ2 流品のものも買いやすく販売してほしい
- アピール力のある農作物の生産
- 安価にする

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.地元農産物の購入	151	59.2%
2	2.農業体験、イベント等交流	58	22.7%
3	3.都市等からの支援（援農）	22	8.6%
4	4.その他	9	3.5%
5	5.無回答	15	5.9%
合計		255	100%



【年齢別】2位が目立つのが、20代と60代の「農業体験イベント」（体力と時間に余裕）

	1. 地元農産物の購入	2. 農業体験、イベント等交流	3. 都市等からの支援（援農）	4. その他	無回答
1. 20代	53%	33%	7%	7%	0%
2. 30代	68%	18%	5%	5%	3%
3. 40代	63%	17%	11%	4%	4%
4. 50代	62%	22%	6%	4%	6%
5. 60代	51%	37%	8%	0%	5%
6. 70代以上	58%	9%	14%	5%	14%

【地域別】全体と同じ傾向。中山間に「交流」の割合が大きく、八幡地域の1位は「交流」

	1. 地元農産物の購入	2. 農業体験、イベント等交流	3. 都市等からの支援（援農）	4. その他	無回答
1. 福島	74%	7%	4%	11%	4%
2. 長峰	63%	25%	0%	4%	8%
3. 上妻	67%	19%	10%	5%	0%
4. 忠見	79%	14%	7%	0%	0%
5. 川崎	67%	11%	22%	0%	0%
6. 三河	88%	0%	13%	0%	0%
7. 八幡	13%	38%	13%	13%	25%
8. 岡山	61%	18%	14%	4%	4%
9. 黒木	52%	26%	10%	6%	6%
10. 立花	53%	26%	15%	0%	6%
11. 上陽	44%	25%	0%	0%	31%
12. 矢部	58%	42%	0%	0%	0%
13. 星野	47%	40%	13%	0%	0%

平地	65%	17%	9%	5%	4%
中山間	51%	30%	9%	2%	8%

【農家別】非農家の「地元農産物の購入」が圧倒的に多い

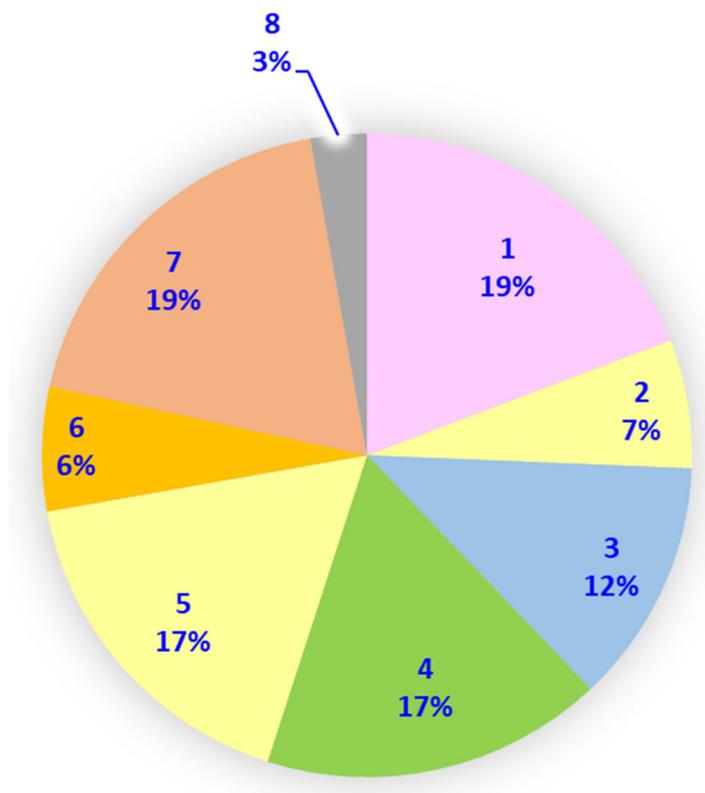
	1. 地元農産物の購入	2. 農業体験、イベント等交流	3. 都市等からの支援（援農）	4. その他	無回答
1. 専業農家	48%	34%	7%	7%	3%
2. 第1種兼業	25%	50%	13%	0%	13%
3. 第2種兼業	50%	26%	12%	0%	12%
4. 非農家	64%	18%	8%	4%	5%

全農家	46%	32%	10%	3%	8%
非農家	64%	18%	8%	4%	5%

問 12. 今後、八女市の農業を維持・発展するための生産・流通・販売は何に取り組めば良いと思いますか。次の中から最大2つまで選んで番号に○印をつけて下さい。

八女市の農業維持・発展に向けた生産・流通・販売の取り組むべき方法では、「1. マスメディアによる地場産農産物の積極的なPR」が19.2%、「7. 市内・市外スーパー等の量販店に八女産コーナーを積極的に設置」が18.8%、「5. 地場産農産物の輸出や宅配・インターネット販売を推進」が17.2%、「4. 地場産農産物のイメージや知名度アップにつながる取組」が17.0%とほぼ均等になっており、地場産農産物に対する販売広報活動の分野となっています。なお、アンテナショップへの期待は低くなっています。

NO.	カテゴリー名	n	%
1	マスメディアによる地場産農産物の積極的なPR	89	19.2%
2	地場産農産物の供給体制の整備(選果場や加工施設等)	30	6.5%
3	地場産農産物を使った加工品や特産品づくり	57	12.3%
4	地場産農産物のイメージや知名度アップにつながる取組	79	17.0%
5	地場産農産物の輸出や宅配・インターネット販売を推進	80	17.2%
6	福岡都市圏に定期的な販売会の実施又はアンテナショップの充実、拡大	29	6.3%
7	市内・市外スーパー等の量販店に八女産コーナーを積極的に設置	87	18.8%
8	無回答	13	2.8%
合計		464	100%



【性別】男性は「マスメディアによる地元産PR」、「地場産イメージアップ」、女性は「スーパーなどに八女産コーナー」、「マスメディアによる地元産PR」の順

	1. マスメディアによる地場産農産物の積極的なPR	2. 地場産農産物の供給体制の整備(選果場や加工施設等)	3. 地場産農産物を使った加工品や特産品づくり	4. 地場産農産物のイメージや知名度アップにつながる取組	5. 地場産農産物の輸出や宅配・インターネット販売を推進	6. 福岡都市圏に定期的な販売会の実施又はアンテナショップの充実、拡大	7. 市内・市外スーパー等の量販店に八女産コーナーを積極的に設置	無回答
男	20.1%	6.4%	11.3%	19.6%	16.7%	5.9%	16.7%	3.4%
女	18.4%	5.9%	12.9%	14.9%	18.0%	6.7%	20.8%	2.4%

【年齢別】20代は「地場産イメージアップ」、「地場産の輸出、宅配、ネット販売」  
 30代は「スーパーなどに八女産コーナー」、「マスメディアによる地元産PR」、「地場産の輸出、宅配、ネット販売」、40代は「地場産の輸出、宅配、ネット販売」、「マスメディアによる地元産PR」、50代は「地場産の輸出、宅配、ネット販売」、「地場産イメージアップ」、60代は「マスメディアによる地元産PR」、「地場産イメージアップ」、「スーパーなどに八女産コーナー」、70代は「スーパーなどに八女産コーナー」、「マスメディアによる地元産PR」が特徴

	1. マスメディアによる地場産農産物の積極的なPR	2. 地場産農産物の供給体制の整備(選果場や加工施設等)	3. 地場産農産物を使った加工品や特産品づくり	4. 地場産農産物のイメージや知名度アップにつながる	5. 地場産農産物の輸出や宅配・インターネット販売	6. 福岡都市圏に定期的な販売会の実施又はアンテナ	7. 市内・市外スーパー等の量販店に八女産コー	無回答
1. 20代	17%	3%	7%	28%	21%	10%	14%	0%
2. 30代	19%	4%	4%	16%	19%	7%	26%	3%
3. 40代	21%	7%	17%	13%	21%	3%	17%	0%
4. 50代	15%	5%	15%	18%	21%	9%	15%	1%
5. 60代	22%	8%	11%	18%	14%	6%	18%	3%
6. 70代以上	19%	8%	13%	16%	11%	4%	20%	9%

【地域別】平地、中山間では全体と同じ傾向。「マスメディアによる地元産PR」が一番多いのは、上妻、川崎、八幡、矢部、星野、「地場産選果場等」が上陽、「地場産イメージアップ」は福島、川崎、上陽、「地場産の輸出、宅配、ネット販売」は忠見、八幡、岡山、立花、「スーパーなどに八女産コーナー」は福島、忠見、黒木、上陽。

	1. マス メディア による地 場産農産 物の積極 的なPR	2. 地場 産農産物 の供給体 制の整備 (選果場や 加工施設 等)	3. 地場 産農産物 を使った 加工品や 特産品づ くり	4. 地場 産農産物 のイメー ジや知名 度アップ につなが る取組	5. 地場 産農産物 の輸出や 宅配・イ ンター ネット販 売を推進	6. 福岡 都市圏に 定期的な 販売会 実施又は アンテナ ショップ の充実、 拡大	7. 市 内・市外 スーパー 等の量販 店に八女 産コー ナーを積 極的に設 置	無回答
1. 福島	13%	6%	13%	<b>23%</b>	13%	6%	<b>23%</b>	2%
2. 長峰	20%	2%	13%	18%	<b>22%</b>	4%	18%	2%
3. 上妻	<b>28%</b>	8%	10%	13%	13%	13%	15%	0%
4. 忠見	17%	3%	14%	14%	<b>21%</b>	10%	<b>21%</b>	0%
5. 川崎	<b>24%</b>	12%	12%	<b>24%</b>	6%	12%	12%	0%
6. 三河	19%	13%	19%	13%	19%	0%	19%	0%
7. 八幡	<b>23%</b>	8%	8%	15%	<b>23%</b>	0%	0%	<b>23%</b>
8. 岡山	16%	4%	10%	16%	<b>26%</b>	2%	24%	2%
9. 黒木	16%	7%	14%	<b>18%</b>	13%	4%	<b>21%</b>	7%
10. 立花	<b>21%</b>	2%	11%	11%	<b>26%</b>	10%	18%	2%
11. 上陽	13%	<b>20%</b>	13%	<b>20%</b>	10%	0%	<b>20%</b>	3%
12. 矢部	<b>20%</b>	10%	3%	17%	13%	17%	17%	3%
13. 星野	<b>29%</b>	4%	18%	<b>25%</b>	11%	0%	14%	0%

平地	19%	6%	12%	17%	18%	6%	19%	2%
中山間	19%	7%	12%	17%	16%	6%	18%	3%

【農家別】農家は「マスメディアによる地元産PR」、非農家は「スーパーなどに八女産コーナー」が一番多い

	1. マス メディア による地 場産農産 物の積極 的なPR	2. 地場 産農産物 の供給体 制の整備 (選果場や 加工施設 等)	3. 地場 産農産物 を使った 加工品や 特産品づ くり	4. 地場 産農産物 のイメー ジや知名 度アップ につなが る取組	5. 地場 産農産物 の輸出や 宅配・イ ンター ネット販 売を推進	6. 福岡 都市圏に 定期的な 販売会 実施又は アンテナ ショップ の充実、 拡大	7. 市 内・市外 スーパー 等の量販 店に八女 産コー ナーを積 極的に設 置	無回答
1. 専業農家	<b>21%</b>	13%	11%	19%	17%	4%	13%	2%
2. 第1種兼業	<b>23%</b>	0%	15%	8%	15%	15%	8%	15%
3. 第2種兼業	<b>20%</b>	13%	12%	15%	10%	5%	<b>20%</b>	5%
4. 非農家	19%	5%	12%	17%	18%	6%	<b>20%</b>	2%

全農家	<b>21%</b>	12%	12%	16%	13%	6%	16%	5%
非農家	19%	5%	12%	17%	18%	6%	<b>20%</b>	2%

【農村について】

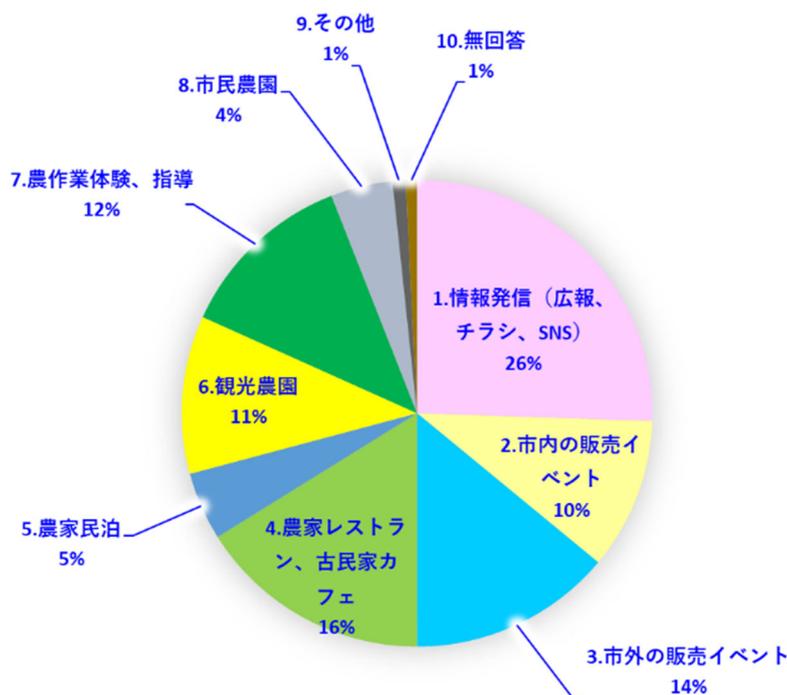
問 13. 八女市の農村理解のために行っていくべきと考える都市と農村の交流事業はどれですか。最大3つまで選んで番号に○印をつけて下さい。

八女市の農村理解のための都市と農村の交流事業については、「1. 情報発信（広報、チラシ、SNS）」が25.5%と1番多く、次いで「4. 農家レストラン、古民家カフェ」が16.1%、「3. 市外の販売イベント」が14.0%、「7. 農作業体験、指導」が12.3%となっており、市内外への情報発信や交流拠点のために広報活動及び販売イベント活動の強化と農家レストラン等に取り組む必要性がみられます。

○その他の回答

- 農地法の改正。食料自給率を上げるためにも一般の人でも30~50坪の畑が持てるように土地取引を緩和してほしい
- 農家独身者向け集団お見合い
- 年齢層やターゲットによって媒体を変え、データを取り、店舗か通販か判断する。

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.情報発信（広報、チラシ、SNS）	168	25.5%
2	2.市内の販売イベント	69	10.5%
3	3.市外の販売イベント	92	14.0%
4	4.農家レストラン、古民家カフェ	106	16.1%
5	5.農家民泊	31	4.7%
6	6.観光農園	72	10.9%
7	7.農作業体験、指導	81	12.3%
8	8.市民農園	28	4.3%
9	9.その他	6	0.9%
10	10.無回答	5	0.8%
合計		658	100%



【性別】男性が「1. 情報発信（広報、チラシ、SNS）」、「3. 市外の販売イベント」の順、女性が「1. 情報発信（広報、チラシ、SNS）」、「4. 農家レストラン、古民家カフェ」の順

	1. 情報発信（広報、チラシ、SNS）	2. 市内の販売イベント	3. 市外の販売イベント	4. 農家レストラン、古民家カフェ	5. 農家民泊	6. 観光農園	7. 農作業体験、指導	8. 市民農園	9. その他
男	27%	12%	14%	12%	5%	11%	12%	5%	1%
女	25%	10%	14%	19%	4%	11%	13%	3%	1%

【年齢別】20代は「4. 農家レストラン、古民家カフェ」が一番多い

	1. 情報発信（広報、チラシ、SNS）	2. 市内の販売イベント	3. 市外の販売イベント	4. 農家レストラン、古民家カフェ	5. 農家民泊	6. 観光農園	7. 農作業体験、指導	8. 市民農園	9. その他
1. 20代	23%	13%	15%	26%	3%	8%	10%	3%	0%
2. 30代	27%	8%	18%	21%	5%	9%	8%	2%	1%
3. 40代	28%	8%	12%	19%	3%	10%	15%	3%	0%
4. 50代	27%	8%	13%	15%	6%	14%	11%	4%	2%
5. 60代	23%	13%	14%	14%	5%	10%	13%	7%	1%
6. 70代以上	23%	14%	14%	10%	5%	12%	15%	4%	2%

【地域別】全体と同じ傾向。福島、八幡地域は「4. 農家レストラン、古民家カフェ」

	1. 情報発信（広報、チラシ、SNS）	2. 市内の販売イベント	3. 市外の販売イベント	4. 農家レストラン、古民家カフェ	5. 農家民泊	6. 観光農園	7. 農作業体験、指導	8. 市民農園	9. その他
1. 福島	24%	12%	13%	25%	4%	12%	7%	1%	1%
2. 長峰	29%	10%	19%	10%	3%	12%	13%	1%	1%
3. 上妻	24%	8%	12%	14%	8%	14%	14%	8%	0%
4. 忠見	26%	6%	23%	11%	3%	14%	11%	0%	3%
5. 川崎	28%	8%	16%	8%	4%	4%	24%	8%	0%
6. 三河	26%	13%	13%	9%	4%	17%	9%	9%	0%
7. 八幡	17%	11%	17%	22%	0%	11%	6%	6%	6%
8. 岡山	28%	11%	10%	21%	6%	6%	13%	6%	0%
9. 黒木	27%	12%	13%	14%	1%	12%	13%	7%	1%
10. 立花	28%	9%	13%	16%	4%	11%	14%	4%	0%
11. 上陽	28%	15%	13%	18%	5%	8%	10%	3%	0%
12. 矢部	16%	10%	10%	14%	12%	16%	12%	6%	2%
13. 星野	25%	8%	19%	19%	8%	6%	14%	0%	0%
平地	26%	10%	15%	16%	4%	11%	12%	4%	1%
中山間	25%	11%	13%	16%	5%	11%	13%	4%	1%

【農家別】第2位は農家が「農業体験」、非農家が「農家レストラン、古民家カフェ」

	1. 情報発信（広報、チラシ、SNS）	2. 市内の販売イベント	3. 市外の販売イベント	4. 農家レストラン、古民家カフェ	5. 農家民泊	6. 観光農園	7. 農作業体験、指導	8. 市民農園	9. その他
1. 専業農家	31%	7%	15%	15%	3%	4%	16%	4%	0%
2. 第1種兼業	14%	14%	19%	19%	0%	19%	10%	5%	0%
3. 第2種兼業	22%	12%	15%	16%	8%	6%	17%	2%	1%
4. 非農家	26%	10%	14%	17%	4%	12%	11%	4%	1%
1-3.全農家	25%	11%	15%	16%	5%	7%	16%	3%	1%
全農家	25%	11%	15%	16%	5%	7%	16%	3%	1%
非農家	26%	10%	14%	17%	4%	12%	11%	4%	1%

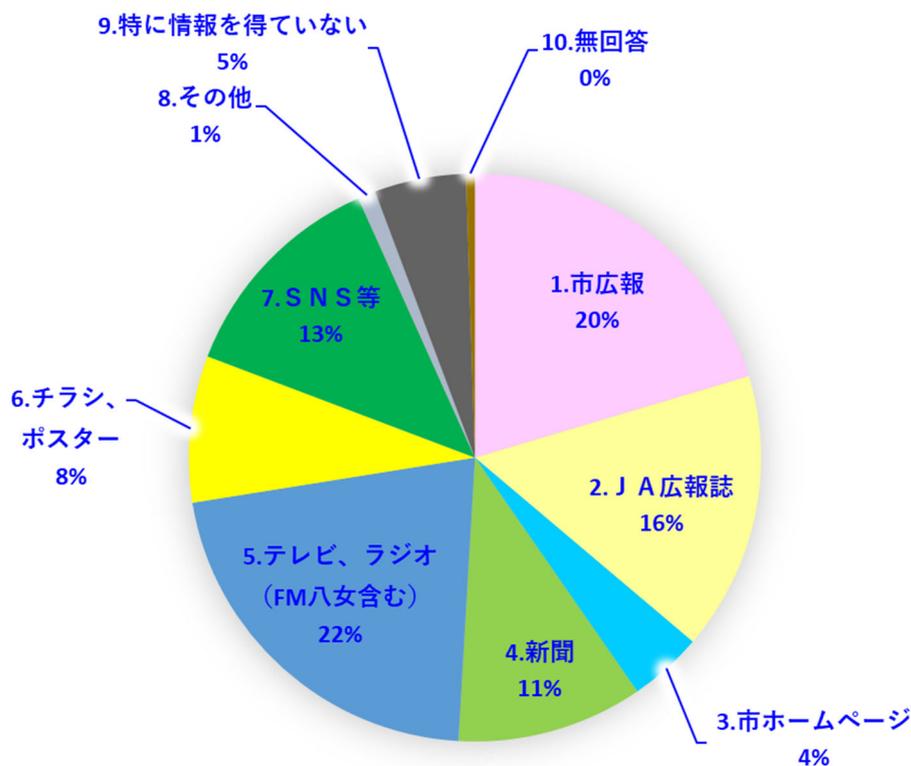
問 14. あなたが都市と農村の交流等に関する情報源としている媒体はどれですか。  
最大3つまで選んで番号に○印をつけて下さい。

八女市民が都市と農村の交流等に関する情報源としている媒体については、「5. テレビ、ラジオ（FM八女含む）」が21.5%と1番多く、次いで「1. 市広報」が20.4%、「2. JA広報誌」が15.9%、「7. SNS等」が12.5%となっており、テレビ・ラジオを情報源としている回答が多いですが、市広報とJA 広報誌を合わせた紙媒体は36.3%となり、市民向けに市とJAの広報活動の成果がみられます。

○その他の回答

- ・ 口コミ
- ・ インターネット検索

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.市広報	122	20.4%
2	2.JA 広報誌	95	15.9%
3	3.市ホームページ	25	4.2%
4	4.新聞	63	10.5%
5	5.テレビ、ラジオ（FM八女含む）	129	21.5%
6	6.チラシ、ポスター	50	8.3%
7	7.SNS等	75	12.5%
8	8.その他	6	1.0%
9	9.特に情報を得ていない	31	5.2%
10	10.無回答	3	0.5%
合計		599	100%



【年齢別】20代は「7. SNS等」、30代と40代と50代は「5. テレビ、ラジオ（FM八女含む）」、60代と70代は「1. 市広報」が一番多い

	1. 市広報	2. JA広報誌	3. 市ホームページ	4. 新聞	5. テレビ、ラジオ（FM八女含む）	6. チラシ、ポスター	7. SNS等	8. その他	9.特に情報を得ていない	無回答
1. 20代	9.1%	9.1%	3.0%	6.1%	18.2%	12.1%	<b>33.3%</b>	3.0%	6.1%	0%
2. 30代	20.0%	11.8%	5.9%	3.5%	<b>22.4%</b>	4.7%	21.2%	1.2%	8.2%	1%
3. 40代	16.5%	12.4%	5.2%	7.2%	<b>23.7%</b>	9.3%	18.6%	1.0%	6.2%	0%
4. 50代	19.4%	16.1%	1.6%	13.7%	<b>24.2%</b>	5.6%	14.5%	0.0%	4.8%	0%
5. 60代	<b>22.3%</b>	19.7%	5.1%	12.1%	21.7%	10.8%	5.7%	0.6%	1.9%	0%
6. 70代以上	<b>26.2%</b>	18.4%	3.9%	14.6%	16.5%	8.7%	1.0%	1.9%	6.8%	2%

【地域別】全体と同じ傾向ですが、平地の3位にSNSが入る。「1. 市広報」は福島、長峰、上妻、「2. JA広報誌」は黒木、矢部、「5. テレビ、ラジオ（FM八女含む）」は忠見、美川、岡山、立花、上陽、星野、「6. チラシ、ポスター」は八幡地域で一番多い

	1. 市広報	2. JA広報誌	3. 市ホームページ	4. 新聞	5. テレビ、ラジオ（FM八女含む）	6. チラシ、ポスター	7. SNS等	8. その他	9.特に情報を得ていない	無回答
1. 福島	<b>23%</b>	8%	3%	11%	20%	8%	20%	0%	7%	0%
2. 長峰	<b>29%</b>	14%	4%	7%	14%	11%	13%	2%	7%	0%
3. 上妻	<b>30%</b>	14%	7%	11%	18%	7%	7%	0%	5%	2%
4. 忠見	11%	14%	6%	14%	<b>28%</b>	11%	14%	0%	3%	0%
5. 川崎	22%	17%	0%	22%	22%	0%	9%	0%	9%	0%
6. 三河	14%	<b>24%</b>	10%	5%	<b>29%</b>	5%	14%	0%	0%	0%
7. 八幡	17%	6%	6%	6%	17%	<b>22%</b>	6%	0%	17%	6%
8. 岡山	17%	16%	6%	5%	<b>27%</b>	5%	17%	2%	5%	0%
9. 黒木	19%	<b>24%</b>	1%	15%	17%	8%	9%	1%	5%	0%
10. 立花	20%	13%	5%	15%	<b>24%</b>	9%	12%	0%	2%	0%
11. 上陽	15%	15%	5%	10%	18%	15%	13%	0%	5%	3%
12. 矢部	23%	<b>25%</b>	5%	7%	20%	2%	11%	2%	5%	0%
13. 星野	20%	17%	0%	3%	<b>30%</b>	7%	10%	7%	7%	0%
平地	21%	14%	5%	10%	21%	8%	14%	1%	6%	1%
中山間	19%	19%	3%	12%	22%	8%	11%	1%	4%	0%

【農家別】全体と同じ傾向。農家がJA広報誌、非農家は市広報誌が2位

	1. 市広報	2. JA広報誌	3. 市ホームページ	4. 新聞	5. テレビ、ラジオ（FM八女含む）	6. チラシ、ポスター	7. SNS等	8. その他	9.特に情報を得ていない	無回答
全農家	18%	<b>20%</b>	3%	13%	<b>22%</b>	8%	11%	1%	4%	1%
非農家	<b>21%</b>	14%	5%	10%	<b>22%</b>	9%	13%	1%	6%	0%

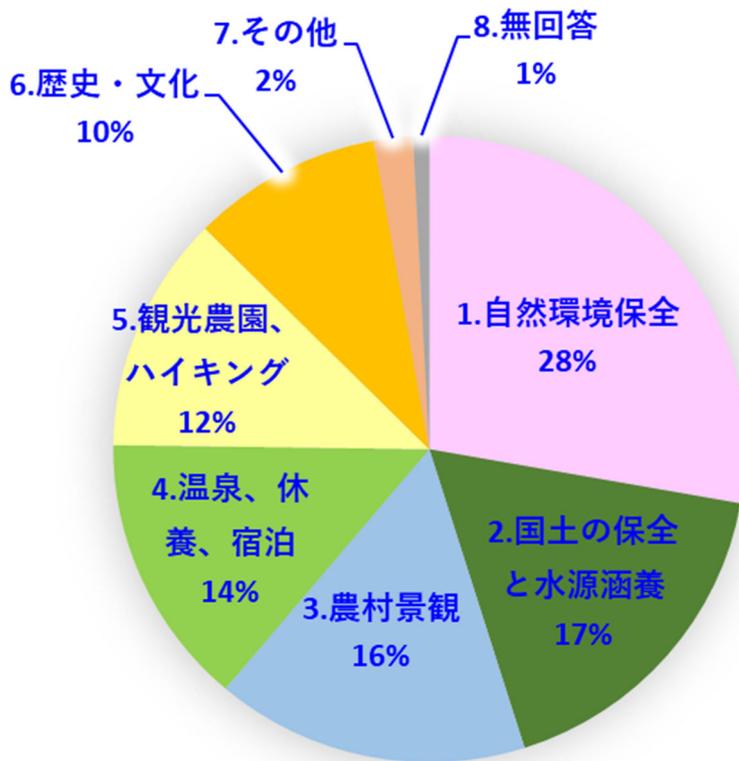
問 15. 食料生産以外で、以下のような農業・農村の多面的機能があります。  
 あなたが八女市に期待するものはどれですか。最大3つまで選んで番号に○印をつけて下さい。

食料生産以外で、農業・農村の多面的機能について市民が八女市に期待するものについては、「1. 自然環境保全」が27.8%と最も多く、次いで「2. 国土の保全と水源涵養」が17.4%、「3. 農村景観」が16.0%となっており、自然環境及び国土保全や農地の保全への期待がうかがえます。

○その他の回答

- ・仕事の創出
- ・農業による市民増加
- ・防災
- ・農村コミュニティの維持、SDGSの展開
- ・供給体制の整備、選果場・加工場の更新及び補助、助成

NO.	カテゴリー名	n	%
1	1.自然環境保全	168	27.8%
2	2.国土の保全と水源涵養	105	17.4%
3	3.農村景観	97	16.0%
4	4.温泉、休養、宿泊	85	14.0%
5	5.観光農園、ハイキング	74	12.2%
6	6.歴史・文化	59	9.8%
7	7.その他	12	2.0%
8	8.無回答	5	0.8%
合計		605	100%



【年齢別】2番目に多いのは、20代と40代は「温泉、宿泊等」、30代と50代と70代は「国土保全等」、60代は「農村景観」

	1. 自然環境保全	2. 国土の保全と水源涵養	3. 農村景観	4. 温泉、休養、宿泊	5. 観光農園、ハイキング	6. 歴史・文化	7. その他	無回答
1. 20代	<b>28%</b>	8%	14%	<b>19%</b>	14%	8%	8%	0%
2. 30代	<b>23%</b>	<b>19%</b>	17%	12%	17%	10%	4%	0%
3. 40代	<b>29%</b>	13%	15%	<b>17%</b>	14%	9%	2%	1%
4. 50代	<b>28%</b>	<b>23%</b>	13%	16%	10%	9%	1%	1%
5. 60代	<b>29%</b>	15%	<b>19%</b>	11%	13%	10%	1%	1%
6. 70代以上	<b>29%</b>	<b>21%</b>	16%	13%	8%	11%	1%	1%

【地域別】全体と同じ傾向。「自然環境保全」以外では三河と八幡が「温泉、宿泊等」、立花が「農村景観」、上陽が「国土保全」、星野が「国土保全」が一番多い

	1. 自然環境保全	2. 国土の保全と水源涵養	3. 農村景観	4. 温泉、休養、宿泊	5. 観光農園、ハイキング	6. 歴史・文化	7. その他	無回答
1. 福島	<b>30%</b>	16%	16%	14%	13%	11%	2%	0%
2. 長峰	<b>30%</b>	21%	16%	9%	9%	11%	4%	0%
3. 上妻	<b>33%</b>	16%	22%	10%	8%	10%	0%	0%
4. 忠見	<b>26%</b>	21%	15%	18%	15%	3%	3%	0%
5. 川崎	<b>32%</b>	16%	20%	4%	12%	12%	4%	0%
6. 三河	22%	11%	6%	<b>28%</b>	17%	11%	6%	0%
7. 八幡	<b>22%</b>	0%	17%	<b>22%</b>	11%	17%	6%	6%
8. 岡山	<b>34%</b>	16%	8%	14%	16%	13%	0%	0%
9. 黒木	<b>30%</b>	18%	16%	14%	10%	10%	1%	0%
10. 立花	22%	17%	<b>22%</b>	13%	14%	11%	1%	0%
11. 上陽	<b>26%</b>	<b>26%</b>	9%	15%	9%	6%	0%	9%
12. 矢部	<b>26%</b>	17%	17%	15%	15%	7%	2%	0%
13. 星野	19%	<b>22%</b>	16%	19%	9%	6%	6%	3%
平地	<b>30%</b>	16%	15%	13%	12%	11%	2%	0%
中山間	25%	19%	17%	15%	12%	9%	2%	1%

【農家別】農家が全体と同じ順位で2位の「国土保全」は特に多い。非農家の2位が「農村景観」、3位に「温泉・休養・宿泊」が入る

	1. 自然環境保全	2. 国土の保全と水源涵養	3. 農村景観	4. 温泉、休養、宿泊	5. 観光農園、ハイキング	6. 歴史・文化	7. その他	無回答
全農家	<b>26%</b>	<b>23%</b>	17%	11%	11%	7%	4%	1%
非農家	<b>28%</b>	15%	16%	15%	13%	10%	1%	1%

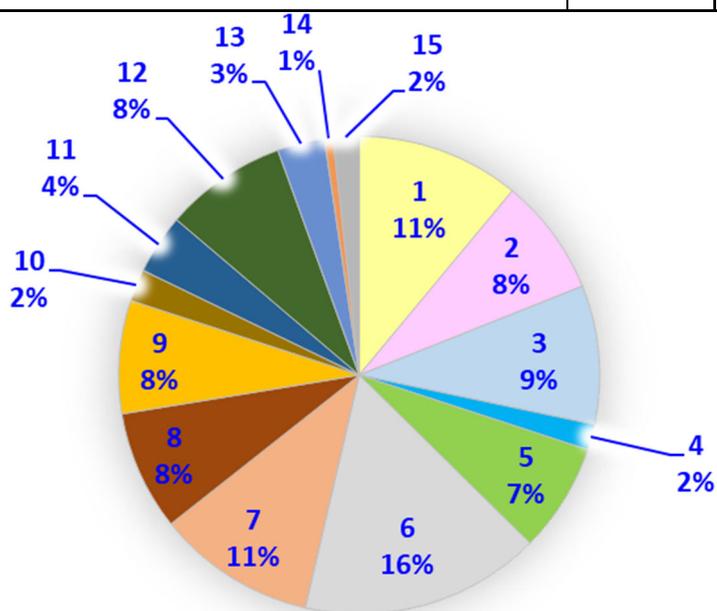
問 16. 地域の快適な生活環境づくりで、優先的に改善や整備すべきものはどれですか。  
 該当する項目を1～14の中から、最大3つまで選んで番号に○を付けて下さい。

地域の快適な生活環境づくりで、優先的に改善整備すべきことについては、「6. 災害防止（洪水や崖崩れ等の対策）」が16.2%と最も多く、次いで「1. 地域の快適な環境（公園・広場、緑地の緑、水辺の環境）づくり」が11.0%、「7. 通勤・通学、買い物等のバス等公共交通機関の便利さや道路の改良」が10.7%となっており、近年の豪雨等の影響と思われる災害防止への関心の高まりが感じられます。また、快適な環境整備や交通利便性の向上を望む回答が多いです。これらは定住環境の必須条件と考えられます。生活環境等は地域によっては充実しているところや未整備のところがあると考えられます。

○その他の回答

- ・通勤可能な職場があれば良い。職場がないから都市部に流出する
- ・ごみを燃やさない

NO.	カテゴリー名	n	%
1	地域の快適な環境（公園・広場、緑地の緑、水辺の環境）づくり	76	11.0%
2	農村景観（水田、畑、森林、川、池）の維持	55	7.9%
3	生活環境（家庭雑排水・し尿処理、ごみの収集・処理、上水道）の向上	65	9.4%
4	悪臭、騒音対策	12	1.7%
5	安全対策（消防等の火災防止、街灯、巡回等の犯罪防止、交通安全対	51	7.4%
6	災害防止（洪水や崖崩れ等の対策）	112	16.2%
7	通勤・通学、買い物等のバス等公共交通機関の便利さや道路の改良	74	10.7%
8	地域での買い物の便利さ	56	8.1%
9	保健・医療施設、老人福祉、ケア施設の便利さ	53	7.7%
10	公共施設（集会施設、文化施設、スポーツ施設等）の充実や便利さ	15	2.2%
11	教育施設（小学校、中学校、保育園、幼稚園）の充実	28	4.0%
12	空き家住宅対策、古民家の活用、公営住宅の充実	57	8.2%
13	地域コミュニティ（近所づきあい、祭り等）の維持	22	3.2%
14	その他	4	0.6%
15	無回答	12	1.7%
合計		692	100%



【性別】男性の2番目は「快適な環境」女性は「交通機関の便利さ」

	1. 地域の快適な環境（公園・広場・緑地の緑、水辺の環境）づくり	2. 農村景観（水田、畑、森林、川、池）の維持	3. 生活環境（家庭雑排水・し尿処理、ごみの収集・処理、上水道）の向上	4. 悪臭、騒音対策	5. 安全対策（消防等の火災防止、街灯、巡回等の犯罪防止、交通安全対策）	6. 災害防止（洪水や崖崩れ等の対策）	7. 通勤・通学、買い物等のバス等公共交通機関の便利さや道路の改良	8. 地域での買い物物の便利さ	9. 保健・医療施設、老人福祉、ケア施設の便利さ	10. 公共施設（集会施設、文化施設、スポーツ施設等）の充実や便利さ	11. 教育施設（小学校、中学校、保育園、幼稚園）の充実	12. 空き家住宅対策、古民家の活用、公営住宅の充実	13. 地域コミュニティ（近所づきあい、祭り等）の維持
男	11.3%	8.6%	10.6%	3.0%	6.6%	17.2%	9.6%	7.0%	7.3%	2.0%	3.3%	6.3%	4.3%
女	10.6%	7.5%	8.5%	0.5%	8.0%	15.5%	11.7%	8.8%	8.0%	2.3%	4.7%	9.6%	2.3%

【年齢別】30代は「快適な環境」70代は「交通機関の便利さ」が一番多い

	1. 地域の快適な環境（公園・広場・緑地の緑、水辺の環境）づくり	2. 農村景観（水田、畑、森林、川、池）の維持	3. 生活環境（家庭雑排水・し尿処理、ごみの収集・処理、上水道）の向上	4. 悪臭、騒音対策	5. 安全対策（消防等の火災防止、街灯、巡回等の犯罪防止、交通安全対策）	6. 災害防止（洪水や崖崩れ等の対策）	7. 通勤・通学、買い物等のバス等公共交通機関の便利さや道路の改良	8. 地域での買い物物の便利さ	9. 保健・医療施設、老人福祉、ケア施設の便利さ	10. 公共施設（集会施設、文化施設、スポーツ施設等）の充実や便利さ	11. 教育施設（小学校、中学校、保育園、幼稚園）の充実	12. 空き家住宅対策、古民家の活用、公営住宅の充実	13. 地域コミュニティ（近所づきあい、祭り等）の維持
1. 20代	15%	10%	7%	0%	7%	22%	12%	0%	2%	5%	5%	7%	7%
2. 30代	15%	5%	11%	2%	8%	14%	9%	8%	5%	1%	9%	6%	3%
3. 40代	12%	2%	10%	2%	7%	17%	10%	11%	10%	3%	6%	6%	1%
4. 50代	12%	11%	8%	1%	6%	17%	13%	6%	6%	3%	2%	12%	2%
5. 60代	9%	11%	8%	3%	8%	17%	9%	8%	9%	2%	2%	10%	2%
6. 70代以上	7%	9%	12%	1%	7%	13%	13%	11%	10%	1%	2%	5%	7%

【地域別】全体と同じ傾向。中山間は「災害防止」が目立つ。長峰、上妻は「快適な環境」、三河は意見が分かれた

	1. 地域の快適な環境（公園・広場・緑地の緑、水辺の環境）づくり	2. 農村景観（水田、畑、森林、川、池）の維持	3. 生活環境（家庭雑排水・し尿処理、ごみの収集・処理、上水道）の向上	4. 悪臭、騒音対策	5. 安全対策（消防等の火災防止、街灯、巡回等の犯罪防止、交通安全対策）	6. 災害防止（洪水や崖崩れ等の対策）	7. 通勤・通学、買い物等のバス等公共交通機関の便利さや道路の改良	8. 地域での買い物物の便利さ	9. 保健・医療施設、老人福祉、ケア施設の便利さ	10. 公共施設（集会施設、文化施設、スポーツ施設等）の充実や便利さ	11. 教育施設（小学校、中学校、保育園、幼稚園）の充実	12. 空き家住宅対策、古民家の活用、公営住宅の充実	13. 地域コミュニティ（近所づきあい、祭り等）の維持
1. 福島	10%	6%	10%	1%	4%	17%	14%	9%	6%	3%	6%	10%	4%
2. 長峰	17%	6%	17%	3%	8%	9%	9%	8%	8%	2%	3%	5%	2%
3. 上妻	15%	10%	11%	2%	11%	11%	10%	8%	3%	0%	5%	10%	0%
4. 忠見	8%	8%	8%	5%	5%	18%	10%	3%	8%	10%	3%	10%	5%
5. 川崎	8%	8%	8%	4%	12%	15%	8%	8%	15%	0%	4%	8%	0%
6. 三河	5%	0%	10%	0%	10%	20%	20%	0%	20%	5%	5%	5%	0%
7. 八幡	10%	10%	5%	5%	14%	10%	19%	5%	5%	0%	5%	5%	0%
8. 岡山	14%	4%	9%	0%	14%	14%	11%	13%	4%	4%	6%	4%	4%
9. 黒木	9%	10%	10%	2%	6%	15%	13%	7%	10%	2%	4%	9%	2%
10. 立花	12%	6%	8%	2%	3%	17%	6%	14%	9%	1%	2%	12%	5%
11. 上陽	5%	12%	10%	0%	10%	21%	5%	12%	10%	2%	0%	7%	5%
12. 矢部	12%	12%	4%	0%	4%	24%	10%	4%	6%	0%	6%	12%	2%
13. 星野	9%	14%	9%	0%	3%	26%	9%	0%	9%	0%	0%	6%	9%

平地	12%	6%	10%	2%	9%	14%	12%	8%	7%	3%	5%	7%	2%
中山間	10%	10%	8%	1%	5%	19%	9%	8%	9%	1%	3%	10%	4%

【農家別】2番目に多いのは、農家が「農村景観維持」非農家は「地域の快適な環境」

	1. 地域の快適な環境（公園・広場、緑地）	2. 農村景観（水田、畑、森林、川、池）	3. 生活環境（家庭雑排水・し尿処理、ご	4. 悪臭、騒音対策	5. 安全対策（消防等の火災防止、街灯、巡	6. 災害防止（洪水や崖崩れ等の対策）	7. 通勤・通学、買い物等のバス等公共	8. 地域での買い物の便利さ	9. 保健・医療施設、老人福祉、ケア施設	10. 公共施設（集会施設、文化施設、ス	11. 教育施設（小学校、中学校、保育園、幼	12. 空き家住宅対策、古民家の活用、公営	13. 地域コミュニティ（近所づきあい、祭り
1. 専業農家	11%	14%	7%	1%	3%	21%	10%	5%	11%	1%	4%	7%	3%
2. 第1種兼業	5%	9%	14%	0%	5%	9%	9%	14%	9%	0%	9%	5%	9%
3. 第2種兼業	5%	13%	10%	1%	4%	24%	9%	10%	7%	0%	1%	10%	2%
4. 非農家	12%	6%	9%	2%	9%	14%	11%	8%	7%	3%	4%	8%	3%
1-3.全農家	8%	13%	9%	1%	4%	21%	9%	9%	9%	1%	3%	8%	3%
全農家	8%	13%	9%	1%	4%	21%	9%	9%	9%	1%	3%	8%	3%
非農家	12%	6%	9%	2%	9%	14%	11%	8%	7%	3%	4%	8%	3%

●ご意見・ご要望等の記入欄

【食料】							
NO.	地域	家族数	性別	年齢	職業	農家非農家	自由意見【食料】
8	矢部	3人	男性	30代	会社員等	非農家	・筑後の「よらん野」と同等以上の施設を八女にも作るべき。 ・このアンケートのおかげで地元野菜や作られたものを購入しようと思った。八女市が少しずつでも変わっていくと思うと胸が高鳴る。
12	福島	3人	女性	20代	フリーター	非農家	・地方からの居住者を募集(アジアなどの外国人など)。田、畑、空き家などを活用する。輸入を減らし、食料は日本製を増や
20	八幡	2人	男性	70代	無職	非農家	・内需の強化。八女市内ですべてを消費する仕組みづくりを目指す。
21	福島	3人	男性	70代	無職	非農家	・義務教育の給食部材を地元産消費に義務付ける。県給食センターの給食部材を購入しない。地産地消の意味を再確認すべ
24	長峰	3人	男性	60代	アルバイト	第2種兼業	・地元産の野菜など、新鮮なものをもっとスーパーなどに置いてほしい。少し高くても新鮮で美味しいようなものは皆購入する
25	長峰	5人	女性	30代	パート	非農家	・公園も一緒にあった道の駅のような場所(お土産ではなく朝採り野菜果物がメイン)が市内にできるとよい。
27	立花	5人	男性	30代	会社員等	無回答	・立花地区で買い物ができるショッピングモールやスーパーがあれば助かる。
42	福島	5人	女性	70代	無職	非農家	・84歳なので歩いて買い物に行けるスーパーやコンビニがあると助かる。
【農業】							
NO.	地域	家族数	性別	年齢	職業	農家非農家	自由意見【農業】
2	福島	3人	女性	50代	パート	非農家	・自宅裏の畑では、二毛作の麦が所々そのままになり、枯れ果て鳥が集まっている。
3	岡山	3人	女性	50代	会社員等	非農家	・教育施設等での、農業体験や農業者による授業はすごく意義があると思う。農家も高齢化や後継者不足で大変な状況なので、SNSなどで発信できるとよい。
5	八幡	7人	男性	30代	農業等	専業農家	・農業で従業員を雇用する場合には、1人1ヶ月20万ほどの補助を出し、若い人に農業をさせ、その後独立させるような仕組みをつくる。失敗したら公務員として雇う。
9	福島	2人	男性	70代	無職	非農家	・農業への企業の参入を促進してほしい。それで地域の快適な環境は改善すると思う。零細農家では、虫食いの乱開発や放置農地の点在で解決しない。アンケート回答が細か過ぎて回答に困った。
10	黒木	4人	男性	30代	会社員等	非農家	・農村景観に関しては、後継者がなく、荒れて景観が悪い。個人的事業許可による騒音の問題ではあるが、時間短縮や休日徹底を希望したい(労務のあり方問題)。景観を損ね、活気がなくなるので空き家空き地の活用を考えてほしい。
13	矢部	6人	男性	30代	農業等	非農家	・空き地と耕作放棄地の管理を徹底すべき。他県では耕作放棄地を借りるハードルが高いので、そこを改善して次世代に繋げるのが理想。家と畑と資金があれば若手も流れてくる。
15	黒木	3人	女性	60代	主婦兼アル	非農家	・米、麦、大豆等重要作物は、全品国家買い上げによって、小農家の生計を守ることが重要である。過疎地域の自然を保持する、大胆な施策なくして復興はあり得ない。
17	黒木	6人	女性	40代	農業等	専業農家	・20年間、1日も休まず毎日働いている。農家では暮らしていくことができない。食品も1番安いもの、ぼろぼろの布団を縫って、ぼろぼろの服を着て生活をしている。この生活がみじめでたまらない。二度と農家はしたくない。
18	黒木	3人	女性	60代	専業主婦	非農家	・管理できない森林や水田、畑をどうにかしてほしい。若い家族が住むようになれば、町が活気づくのでは。
19	長峰	2人	男性	50代	会社員等	非農家	・八女の特産物には茶や菊などがあるが、他にももっとあると思う。ただどれもブランド化されず、知名度も低い。ほかの市町村では、市長等行政が一体となり成功していると思う。本市も市長が中心となり、もっと効果的な取り組みを行うべき。八女市をPRする努力を期待したい。
20	八幡	2人	男性	70代	無職	非農家	・地方からの居住者を募集(アジアなどの外国人など)。田、畑、空き家などを活用する。輸入を減らし、食料は日本製を増やす。
28	福島	2人	男性	70代	無職	非農家	・専業農家が産業として十分成り立つような政策が望まれる。「子供に跡継ぎさせたくない」という農家が数人いた。
31	矢部	7人	女性	30代	会社員等	非農家	・後継者不足が大きな問題。矢部村も独身者が多い。年齢層ごと又は地域ごとのお見合いイベントを開催してほしい。米をはじめ、自信をもって出せる商品は沢山あるのもっと付加価値を付けて売ってほしい。
33	黒木	3人	女性	60代	専業主婦	第2種兼業	・カラス、猪などの有害鳥獣対策をしっかりとしないと、農作物も作れないし、農村に住めないように思う。
39	黒木	4人	女性	60代	会社員等	第2種兼業	・八女市の東部は小規模農家が多く、跡継ぎ問題を抱えている。会社組織を行政が中心で考え、農地の集合化や効率化を提案して、若い人の就職先と収入に繋がるようやしてほしい。
【農村】							
NO.	地域	家族数	性別	年齢	職業	農家非農家	自由意見【農村】
1	星野	4人	女性	40代	その他	第2種兼業	・年々、村の人口の減少が著しい。災害が起きるたびに減っているように思う。まだまだ河川工事は進んでいない。大雨が降ると心に心配は増す。迂回路が多くなり、住むことに嫌気がさす。ストレスになる。お茶をやめる農家も増えており、荒地化している。
4	岡山	4人	男性	30代	会社員等	非農家	・小さな公園でいいので増やしてほしい。深さのある水路に何も設置されておらず、子供が落下しそうで危ない。ガードレール等つけるべき。
6	忠見	4人	男性	50代	会社員等	第2種兼業	・若者の流出を減らしてほしい。
7	長峰	2人	女性	50代	専業主婦	非農家	・八女に安心して子供が遊べる公園がない。
10	黒木	4人	男性	30代	会社員等	非農家	・農村景観に関しては、後継者がなく、荒れて景観が悪い。個人的事業許可による騒音の問題ではあるが、時間短縮や休日徹底を希望したい(労務のあり方問題)。景観を損ね、活気がなくなるので空き家空き地の活用を考えてほしい。
11	星野	2人	男性	60代	農業等	第2種兼業	・少子高齢化による人口減少で、消防や地域組織の維持が難しい。後継者や次世代のため所得向上による家族形成があたり前な状況を作ることが必要。このようなアンケートは多いが、所得向上による施策が具体的になっていないため、市の発展に繋がらない。危機感を持ち、企業のような具体的な行動を起こしてほしい。
14	八幡	1人	男性	50代	専業主夫	非農家	・田舎の場合、中古住宅など畑付きのところがあがる。ちょっとした農作物を作りたいと思っても作って楽しめません。売りたい人買いたい人の間に壁となります。一般の人でも小規模(30~50坪)を持てるようにすると、災害などの非常事態時に食糧不足に役立つと思う。
18	黒木	3人	女性	60代	専業主婦	非農家	・管理できない森林や水田、畑をどうにかしてほしい。若い家族が住むようになれば、町が活気づくのでは。
22	川崎	2人	女性	60代	自営業	非農家	・頻発に発生する災害を思うと、放置してある山、森、田畑を今すぐに市の取り組みで整え、八女市のどこにいても安全に生活できる環境にして市民を守るべき。
23	岡山	3人	男性	30代	会社員等	非農家	・公共交通機関が不便なので住みたくない。燃えないゴミを捨てるのも面倒。ごみの回収を夜にしては、
26	岡山	2人	女性	30代	自営業	専業農家	・八女市内は広くあるのに交通機関が少なすぎる。裏道などの細い道でも車が通るので危険。夜間でも移動できるようバスの本数、ルートを増やして欲しい。無駄な荒地を更地にして、子供の遊び場や高齢者の散歩の休み場を作るべき。「畑を貸してください」という人が何人かいたので、そういう人たちに空いている土地を貸してもいいのでは。川、土手などにガードレールがない。道路工事などが中途半端に終わっていたりする。八女といえばお茶というのなら、公共施設などで蛇口を捻るとお茶が出るようにしたら話題になるのではないだろうか。
27	立花	5人	男性	30代	会社員等	無回答	・立花地区で買い物ができるショッピングモールやスーパーがあれば助かる。
30	立花	4人	女性	70代	無職	非農家	・老人の一人暮らしが増え、以前より住みにくくなっている。近所づきあいができる店が近くにあるならこれが一番だと思う。買い物も病院も遠いのでタクシーで行くしかない。八女市は都会より空気も澄んでおり、住み慣れた土地なのでいつまでも住みたい。
31	矢部	7人	女性	30代	会社員等	非農家	・後継者不足が大きな問題。矢部村も独身者が多い。年齢層ごと又は地域ごとのお見合いイベントを開催してほしい。米をはじめ、自信をもって出せる商品は沢山あるのもっと付加価値を付けて売ってほしい。
32	福島	3人	女性	50代	専業主婦	無回答	・生活環境がよくなり、住みやすい街になるといい。
34	立花	2人	女性	50代	農業等	第1種兼業	・最近SNSで色々な地方の情報をよく見かける。若者が利用するSNSでの情報発信に力を入れ八女の現状、PRなど知ってもらうことが大事である。インスタグラムでの八女観光、道の駅ちばな等の情報を楽しみにしている。FM八女も全国にPRすべきでは
37	上隅	2人	男性	50代	会社員等	非農家	・今後10年で現在よりも世帯数が半減すると思われる地区が多々ある。
38	忠見	3人	女性	50代	会社員等	非農家	・川のごみが酷い。忠見の方からくる小さな水路から空き缶、ペットボトル、レジ袋等流れ着き溜まる。田んぼにもごみが多く投げ込まれている。道路は大雨になると冠水する。幅が狭い道でもスピードを出す車が多い。
40	矢部	2人	女性	50代	農業等	専業農家	・山間部を中心に観光に力を入れてほしい。国道や県道の草切は行政でしっかり行ってほしい。作業は危険が伴うので、高齢化が進んだ地域住民では心配。
41	黒木	4人	男性	40代	農業等	専業農家	・中山間地域では、人口も減少し高齢化により活動が手薄になっている。住みやすい環境作りもいいが、中山間地域での草刈りや伐採作業は委託しても省力化させたい。そうでないと残っている若者の負担が増え、人口の流出につながる。残っている人の負担を減らすような取り組みをお願いしたい。
42	福島	5人	女性	70代	無職	非農家	・84歳なので歩いて買い物に行けるスーパーやコンビニがあると助かる。
【全体】							
NO.	地域	家族数	性別	年齢	職業	農家非農家	自由意見
1	星野	4人	女性	40代	その他	第2種兼業	・年々、村の人口の減少が著しい。災害が起きるたびに減っているように思う。まだまだ河川工事は進んでいない。大雨が降ると心に心配は増す。迂回路が多くなり、住むことに嫌気がさす。ストレスになる。お茶をやめる農家も増えており、荒地化
16	岡山	4人	男性	40代	会社員等	非農家	・JAの抜本的な改善を求める。八女市の農業の未来を危惧する。
29	上隅	5人	女性	30代	会社員等	非農家	・税金が高い。
35	三河	3人	女性	40代	無職	非農家	・農業振興に期待している。
36	立花	4人	男性	30代	会社員等	非農家	・「〇〇をして地域を活性化しようや」、「実は〇〇をすることが地域の活性化に繋がっています」等、アピールしていくといいと思う。八女市の農業をよくしていくために協力したい。



---

■発行／令和4年3月 ■企画・編集／八女市 建設経済部 農業振興課

■発行者／福岡県 八女市

〒834-8585 福岡県八女市本町 647

TEL 0943-23-1111 (代表)

0943-23-1118 (直通)

---



八女市